

宮崎市政モニター

令和3年度第1回アンケート集計結果

(令和3年7月実施分)

第1回アンケート

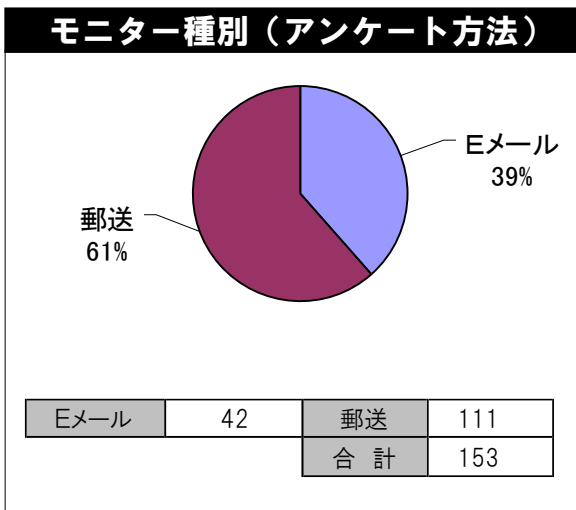
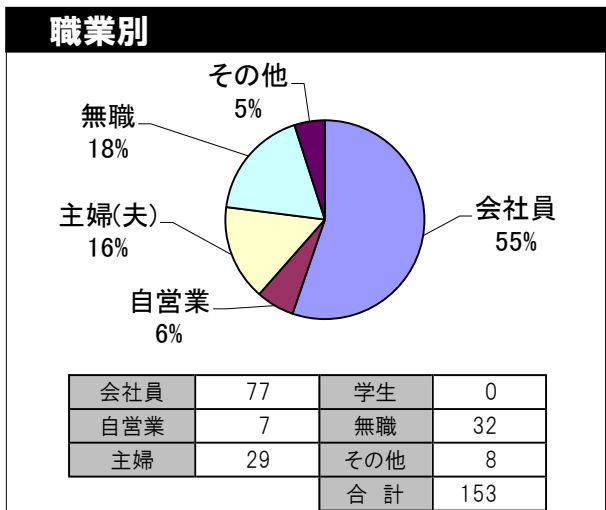
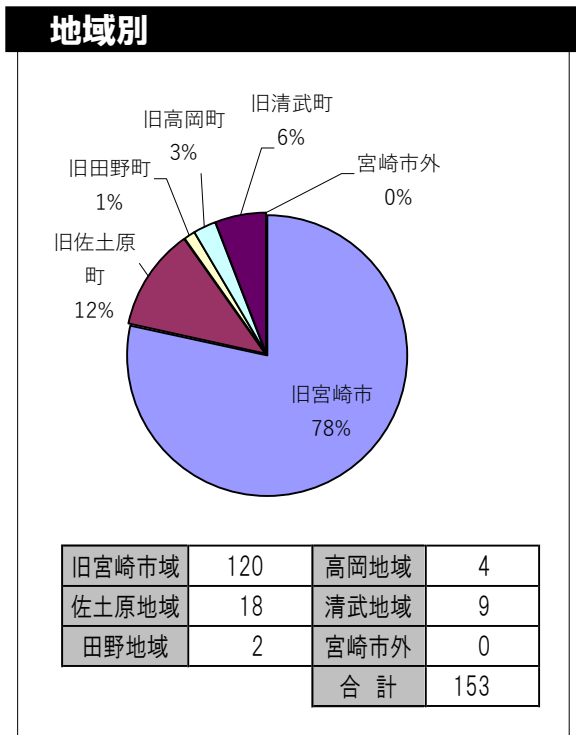
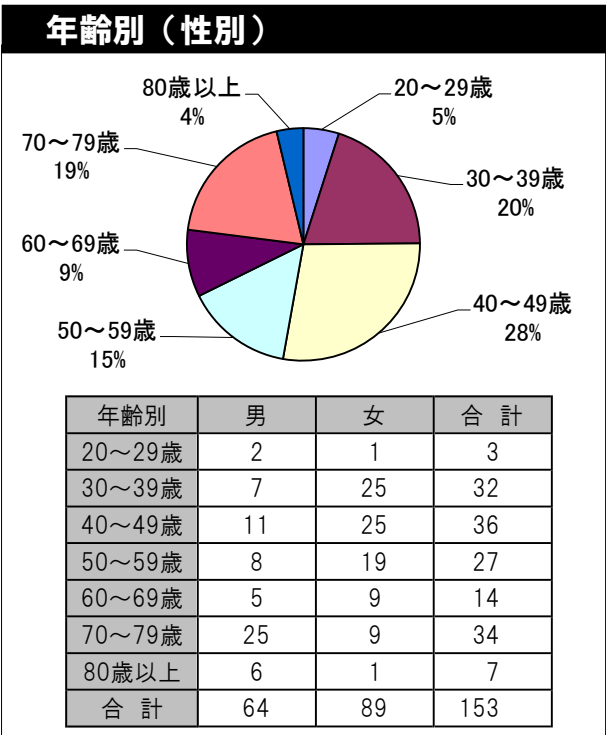
- | | |
|-------------------------|-----|
| ① 「地域コミュニティ」に関するアンケート調査 | … 3 |
| ② 「食育と地産地消」に関するアンケート調査 | …13 |
| ③ 「再犯防止の推進」に関するアンケート調査 | …25 |

宮崎市秘書課広報広聴室

令和3年度 第1回宮崎市政モニターアンケート調査概要

(1)調査担当課	①地域振興部 地域コミュニティ課 ②農政部 農政企画課 ③福祉部 福祉総務課
(2)活動内容	①地域コミュニティに関する市民意識調査 ②「食育と地産地消」に関するアンケート調査 ③「再犯防止の推進」に関するアンケート調査
(3)調査期間	令和3年6月25日～令和3年7月9日 ※終了後も一定期間回収
(4)送付数	184人(郵送モニター118人、e-モニター66人)
(5)回答数	153人(郵送モニター111人、e-モニター42人) 回答率:83%

モニター属性（回答者）



「地域コミュニティ」に関するアンケート調査 集計結果

◆ 調査の目的

本市では、地域自治区制度の下、地域のまちづくりを進めているが、その中心を担っているのは、地域住民の意見を調整し、市政に反映させる「地域協議会」と、地域のまちづくり活動を行う「地域まちづくり推進委員会」であるため、これらの認知度などを調査することにより、今後のまちづくり活動の参考とするものである。

◆ 調査の概要

- | | | |
|-----------|----------------------|-------------|
| (1) 調査期間 | 令和3年6月28日 ~ 令和3年7月9日 | ※終了後も一定期間回収 |
| (2) モニター数 | 184人 | |
| (3) 回答者数 | 153人 (回答率 83.2%) | |
| (4) 担当課 | 地域振興部 地域コミュニティ課 | |

◆ 調査結果考察

【問1】の「地域活動への参加」については、80.4%の方が何らかのまちづくり活動に対して参加しているという結果となり、昨年度よりも1.5ポイント増加した。

【問2】の「参加動機」としては、「自主的に参加した」が55.3%と最も多く、2番目に「自治会などの地域団体からの依頼」、3番目に「子どもや家族のため」が続く、まちづくり活動の参加者のうち、約半数の方は、自主的に参加している。

【問3】の「地域活動に参加したことがない」と回答した19.0%の方の「参加していない理由」としては、「仕事や家事などが忙しくて参加する時間がないから」が51.7%と最も多く、3番目の「自分や家族のプライベートの時間を大切にしたいから」を合わせると、75.9%の方が、地域活動に対する時間的余裕がなく、優先順位も低くなっている。

【問4】の「どのようなことがあれば地域活動に参加したいか」については、「地域住民の交流が持てる祭りや運動会」「子どもに関する取組などの情報を発信してほしい」など、「内容」や「情報」に関する意見が多く、地域住民同士のつながりを深める活動が求められている。

【問6】～【問7】より「地域協議会」については、「役割などは知らないが、聞いたことがある」という方は54.2%で、昨年度より12.0ポイント増加しており、「役割まで知っている」という方は28.1%で、昨年度よりも3.2ポイント、「聞いたことがない」という方は16.3%で、昨年度よりも10.2ポイントそれぞれ減少した。また、「地域協議会での協議内容や決定事項など」については、「見たことがある」という方が73.9%で、昨年度より2.5ポイント増加するなど、地域協議会の役割を含め、認知度は向上しているため、継続してホームページや広報誌等で周知していく必要がある。

【問8】～【問9】の「地域魅力発信プラン」については、「知っている」が38.6%で、昨年度よりも4.6ポイント増加し、60.1%の方が「知らない」という結果となった。知ったきっかけは、ほとんどの方が「地域協議会だより」や「自治会での回覧」と回答している。プランを広く周知するため、その他の媒体の活用や広報の方法を検討する必要がある。

【問10】～【問11】の「地域のお宝発掘・発展・発信事業」については、37.3%の方が「知っている」と回答しており、昨年度よりも4.6ポイント増加した。しかし、60.1%の方が「知らない」と回答しているため、今後も事業内容等を幅広く周知できるよう、広報にも工夫が必要である。

【問12】～【問14】の「地域まちづくり推進委員会」については、「活動内容まで知っている」という方が29.4%で、昨年度よりも4.2ポイント増加し、「参加したことがある」という方が26.1%で、昨年度よりも5.0ポイント増加した。また、地域まちづくり推進委員会が発行する広報誌やチラシについては、60.1%の方が「見たことがある」と回答しており、昨年度より5.0ポイント増加した。いずれも増加しているため、継続して活動に興味を持ってもらう工夫や様々な媒体を活用し、認知度を高めていく必要がある。

【問15】～【問18】の「地域版ふるさと納税」については、20.9%の方が「知っている」と回答しており、77.8%の方が「知らない」という結果となった。知ったきっかけは、「市のホームページ・フェイスブック」「チラシ」「新聞」が中心となっているため、継続して様々な広報活動に取り組み、制度内容や認知度を高めていく必要がある。また、「どのような活動に対して寄附をしたいと思うか」では、「子育て」に関する活動がもっとも多く、「環境」「親睦」が続いている。また、「制度に対する意見」としては、「返礼品」や「寄附金額」に関する意見が挙がっている。

【問21】の「地域の課題」については、「防犯」についての意見がもっとも多く、「環境」「防災」「教育」「地域の親睦」「子育て」が続いている。特に、「防犯・防災」「子育て・高齢者支援」「地域住民同士の交流」は、自治会や地域まちづくり推進委員会が主に取り組んでいる事業であるため、重点的な課題として取り組むべき事項と考えられる。

【問22】のまちづくりを発展させるための取組としては、「退職した方が地域の活動にかかわっていないため、企業等への呼びかけを含め、現役世代から地域の活動にかかわる環境作りを行政主導で行うといい」「自治会の高齢化が進む中、活動を継続させるために、財源の確保や活動の有償化していく仕組みづくりが必要である」「公民館の活動はまちづくりに欠かせない」などの意見が挙げられており、地域のまちづくりが持続可能なものとなるよう、取り組んでいく必要があると考えられる。

◆ 調査結果まとめ

前年度と比較して、「地域協議会」や「地域まちづくり推進委員会」の活動の認知度、地域活動への参加者の割合は増加する結果となった。引き続き、活動内容等を周知し、活動の実効性を高めていく必要がある。

また、役員の高齢化や担い手不足、活動のマンネリ化など、人口減少や高齢化に起因する課題が挙げられている。住民ニーズや地域の課題は多様化しているため、事業の企画や広報を検討し、若い世代をはじめ、広く住民を巻き込みながら、まちづくりを展開していく必要がある。

◎ 調査結果

集計結果の数値(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の比率の合計が100%にならない場合がある。また、複数回答の設問は、比率の合計が100%を超える。

1. あなた自身のまちづくり活動に関して、おうかがいします

問1 地域の活動に参加したことがありますか。
※地域の活動…地域清掃や地域の防災訓練、運動会、自治会活動、子ども会活動など

選択肢	回答数	構成比
1 参加したことがある	123	80.4%
2 参加したことがない	29	19.0%
3 無回答	1	0.7%
計	153	100%

問2 【問1で「1 参加したことがある」と答えた方に質問します】（複数回答可）
地域の活動に参加した動機（きっかけ）は何ですか。

選択肢（回答者数123人）	回答数	構成比
1 自主的に参加した	68	55.3%
2 家族のすすめ・誘いがあったから	12	9.8%
3 知人や友人からのすすめ・誘いがあったから	7	5.7%
4 子どもや家族のために	36	29.3%
5 自治会などの地域団体から依頼があったから	51	41.5%
6 職場から依頼があったから	9	7.3%
7 その他	7	5.7%
8 無回答	29	23.6%
計	219	—

- 「その他」の主なご意見
- ・近所からお誘いがあったから。
 - ・学校のPTAの活動として。
 - ・参加義務になっているから。

問3 【問1で「2 参加したことがない」と答えた方に質問します】（複数回答可）
地域の活動に参加していない理由は何ですか。

選択肢（回答者数29人）	回答数	構成比
1 地域活動を知らなかったから	11	37.9%
2 地域活動に参加したいと思わないから	4	13.8%
3 地域活動に参加しなくても生活に支障がないから	5	17.2%
4 いずれ今の住所から転居するつもりだから	1	3.4%
5 仕事や家事などが忙しくて参加する時間がないから	15	51.7%
6 自分や家族のプライベートの時間を大切にしたいから	7	24.1%
7 その他	2	6.9%
8 無回答	1	3.4%
計	46	—

- 「その他」の主な意見
- ・住んでいる地区の自治会が、マンション住民の入会を拒否しているから。
 - ・高齢により体調に不安があるため。

問4 どのようなことがあれば地域活動に参加したいと思いますか。（自由記述）
 ※現在の地域活動に対する改善策でも構いません。

（主なご意見）

【内容に関する意見：59件】

- ・ ゴミ拾いや防災訓練等、子どもと一緒に参加できる活動
- ・ 防災対策など避難経路の確認や高齢者や障がい者世帯で支援が必要な方との交流
- ・ 出前講座を活用し、時事問題の解説や防犯、防災をテーマに取り上げた講座
- ・ 若い世代や子どもが中心となって行える地域活動
- ・ 地域住民の交流が持てる祭りや運動会など

【知人等の誘い：5件】

- ・ 近所や自治会からの声かけ等があれば参加したい。
- ・ マンションに住んでいるので、地域のつながりが薄い。

【情報に関する意見：13件】

- ・ 活動内容について、広報誌や新聞でPRして欲しい。
- ・ 子どもに関する取り組みなどの情報を発信して欲しい。

【時間や日程に関する意見：5件】

- ・ 定年後に地域の活動に参加できると思う。
- ・ 働く世代が参加しやすい環境づくりが必要だと思う。

【参加したくない：8件】

- ・ 子ども会でやむを得ず参加している。
- ・ 感染症の心配がなくなったら考える。

【その他（地域活動に関する意見など）：23件】

- ・ 自治会等の活動が制限される中、人とのかかわりが多くなれば、防犯にもつながると思う。
- ・ 年齢と共に催事への参加が面倒になるが、役員の方の頑張りを受け、運動会等に参加している。

2. 地域自治区について、おうかがいします

問5 ご自身がどの地域自治区に住まわれているかご存知ですか。

選択肢	回答数	構成比
1 知っている	133	86.9%
2 知らない	16	10.5%
3 無回答	4	2.6%
計	153	100%

3. 地域協議会について、おうかがいします

問6 各地域自治区には、地域住民の意見を市政に反映させるための組織である「地域協議会」が設置されています。
 地域協議会をご存知ですか。

選択肢	回答数	構成比
1 役割まで知っている	43	28.1%
2 役割などは知らないが、聞いたことがある	83	54.2%
3 聞いたことがない	25	16.3%
4 無回答	2	1.3%
計	153	100%

問7 地域協議会では、地域協議会だよりなどの広報で、協議内容や決定事項などをお知らせしています。ご覧になったことはありますか。

選択肢	回答数	構成比
1 見たことがある	113	73.9%
2 見たことがない	38	24.8%
3 無回答	2	1.3%
計	153	100%

問8 地域自治区ごとに、地域協議会等が主体となって、地域まちづくりの将来像を明確にするために「地域魅力発信プラン」を作成しました。「地域魅力発信プラン」が策定されたことはご存知ですか。

選択肢	回答数	構成比
1 知っている	59	38.6%
2 知らない	92	60.1%
3 無回答	2	1.3%
計	153	100%

問9 【問8で「1 知っている」と答えた方に質問します】（複数回答可）この「地域魅力発信プラン」を知ったきっかけは何ですか。

選択肢 (回答者数113人)	回答数	構成比
1 地域協議会だより	39	66.1%
2 新聞折込(チラシ)	0	0%
3 自治会での回覧	35	59.3%
4 家族や知人、友人からの情報	1	1.7%
5 その他	8	13.6%
6 無回答	3	5.1%
計	86	—

○「その他」の主なご意見

- ・ 民生委員の定例会
- ・ 市のホームページ

問10 地域魅力発信プランの実現を促進し、各地域自治区における地域資源である「お宝」の磨き上げや発信、並びに、住みよく誇りと愛着を持った地域づくりを推進するため、「地域お宝発掘・発展・発信事業」を実施しておりますがご存知ですか。

選択肢	回答数	構成比
1 知っている	57	37.3%
2 知らない	92	60.1%
3 無回答	4	2.6%
計	153	100%

問11 【問10で「1 知っている」と答えた方に質問します】（複数回答可）
この「地域お宝発掘・発展・発信事業」を知ったきっかけは何ですか。

選択肢 (回答者数57人)	回答数	構成比
1 市の広報誌	33	57.9%
2 市のホームページ	7	12.3%
3 地域協議会だより	28	49.1%
4 自治会での回覧	30	52.6%
5 家族や知人、友人からの情報	6	10.5%
6 その他	10	17.5%
計	114	—

○「その他」の主なご意見

- ・ テレビ等から知った。

4. 地域まちづくり推進委員会について、おうかがいします。

問12 各地域自治区には、地域協議会と連携してまちづくり活動に取り組む「地域まちづくり推進委員会※」が組織されています。地域まちづくり推進委員会をご存知ですか。

※地域によっては、地区振興会や地域づくり協議会、地域まちづくり協議会などの名称で組織されています。

選択肢	回答数	構成比
1 活動内容まで知っている	45	29.4%
2 活動内容は知らないが、聞いたことがある	78	51.0%
3 聞いたことがない	27	17.6%
4 無回答	3	2.0%
計	153	100%

問13 地域まちづくり推進委員会が行う行事（地域コミュニティ活動交付金※を活用した事業）などに参加したことはありますか。

※地域自治区の特色を活かしたまちづくりを展開するため、地域課題の解決に向けた活動に必要な財源として、1地区あたり200万～700万円が毎年市から交付される。

選択肢	回答数	構成比
1 参加したことがある	40	26.1%
2 参加したことがない	109	71.2%
3 無回答	4	2.6%
計	153	100%

○主な活動内容

- ・ 「防災訓練」「防犯パトロール」などの防災・防犯に関する活動。
- ・ 「子育て支援」「高齢者サロン」などの地域福祉に関する活動。
- ・ 「花植栽」「河川クリーンアップ」「リサイクル」などの環境に関する活動。

問14 地域まちづくり推進委員会が発行する広報誌やチラシ（地域コミュニティ活動交付金を活用した事業のお知らせ）などを ご覧になったことはありますか。

選択肢	回答数	構成比
1 見たことがある	92	60.1%
2 見たことがない	58	37.9%
3 無回答	3	2.0%
計	153	100%

問15 市では、地域まちづくり推進委員会の活動を応援する取組として、「地域版ふるさと納税制度」の運用を今年度からはじめました。「地域版ふるさと納税制度」をご存知ですか。

選択肢	回答数	構成比
1 知っている	32	20.9%
2 知らない	119	77.8%
3 無回答	2	1.3%
計	153	100%

問16 【問15で「1 知っている」と答えた方に質問します】（複数回答可）この「地域版ふるさと納税制度」を知ったきっかけは何ですか。

選択肢（回答者数32人）	回答数	構成比
1 市のホームページ・フェイスブック	13	40.6%
2 チラシ	11	34.4%
3 新聞	13	40.6%
4 地域まちづくり推進委員からの情報	6	18.8%
5 家族や知人、友人からの情報	4	12.5%
6 その他	3	9.4%
7 無回答	3	9.4%
計	53	—

- 「その他」の主なご意見
- ・ 市広報、テレビのニュース

問17 地域のどのような活動に対して、寄附をしたいと思いますか。（自由記述）

寄附をしたい地域の活動	回答数
防犯に関する活動（子どもの見守り、防犯パトロール）	7
防災に関する活動（防災運連、消防団への支援など）	5
子育てに関する活動（子育て支援、子ども向けイベント活動など）	24
地域福祉に関する活動（高齢者福祉活動、居場所づくりなど）	6
環境問題に関する活動（環境保全、花いっぱい運動など）	20
地域の親睦に関する活動（地域のまつり、運動会など）	10
地域の文化伝承に関する活動（伝統芸能、文化財等の保存など）	5
教育に関する活動（生涯学習教室など）	3
制度に対する意見	18
寄附をしない	14
その他（地域の活性化、意見なしなど）	20
計	132

(主なご意見)

【防犯に関する活動：7件】

- ・ 登下校時の子どもの見守り
- ・ 防犯パトロールの強化

【防災に関する活動：5件】

- ・ 防災訓練や防災対策の拡充
- ・ 消防団への活動支援

【子育てに関する活動：24件】

- ・ 子育て支援、出産支援
- ・ 子ども向けのイベントや活動
- ・ 子ども食堂や寺子屋

【地域福祉に関する活動：6件】

- ・ 傾聴活動などの福祉活動

【環境問題に関する意見：20件】

- ・ 花いっぱい運動や美化活動
- ・ 緑化や清掃活動
- ・ 地域の猫活動

【制度に対する意見：18件】

- ・ 寄附金が何に使われるのか納得すれば寄附をする。
- ・ 寄附をしたいと思うかの前に、制度があることをもっとPRしないと、何もできない。

【寄附をしない：14件】

- ・ 現在、地域の為に活動をしているため、寄附をしたいとは思わない。
- ・ 地域に寄附しても何の改善もなく、得もないので寄附しません。

問18 地域版ふるさと納税制度は、返礼品を設けず、1口1万円の寄附制度としておりますが、本制度に対する、あなたのご意見をお聞かせください。(自由記述)

制度に対する意見	回答数
使途の明確化について	2
返礼品について	8
寄附金額や方法について	9
制度に対する意見について	16
計	35

(主なご意見)

【使途の明確化について：2件】

- ・ 何に使われたのかが明らかにしてほしい。
- ・ どのように使われるのかを、もっとわかる様にしてほしい。

【返礼品について：8件】

- ・ 返納品なしでは、インパクト、アピール度が低いと思います。きちんとした感謝状などあれば、良いとおもわれます。
- ・ 寄附をすれば、何らかの返礼品は必要

【寄附金額や方法について：9件】

- ・ 1口の単価が高い。1口500円程度が適当と思われる。どんぐり株券制度も500円単位での寄附である。
- ・ 1口1万円の寄附はハードルが高いので、公民館やスーパーに何円寄附しても良い募金箱を置く。

【制度に対する意見について：16件】

- ・ 公平に使用していただければよい。返礼品は必要ないと思う。
- ・ 各地域の自治会費の積立金を崩せばよい。ボランティアや寄附頼みでは、運用できているとはいえないと思う。

問19 市では、一人でも多くの方々が地域のまちづくり活動に気軽に参加していただけるよう、「宮崎市地域まちづくりサポーター」を募集しています。「宮崎市地域まちづくりサポーター」をご存知ですか。

選択肢	回答数	構成比
1 知っている	47	30.7%
2 知らない	101	66.0%
3 無回答	5	3.3%
計	153	100%

問20 【問19で「1 知っている」と答えた方に質問します】（複数回答可）
この「宮崎市地域まちづくりサポーター」を知ったきっかけは何ですか。

選択肢（回答者数47人）	回答数	構成比
1 市の広報誌	43	91.5%
2 市のホームページ・フェイスブック	11	23.4%
3 地域魅力発信プラン集	8	17.0%
4 新聞	3	6.4%
5 家族や知人、友人からの情報	2	4.3%
6 その他	3	6.4%
7 無回答	1	2.1%
計	71	—

○「その他」の主なご意見

- ・ 交流センター内のパンフレット。

5. 地域の課題について、おうかがいします

問21 あなた自身が困っていることや、地域の皆さんで取り組んだら良いと思う地域の課題は何ですか。「内容」の欄には、その課題の具体的な内容をご記入ください。また、「解決策」の欄には、こうしたら解決するのではという方法がございましたら、ご記入ください。（複数回答可）

取り組むべき地域課題	回答数
防犯について（青色パトロールなど）	43
防災について（地域防災訓練など）	32
子育てについて（子育て相談会など）	27
地域福祉について（高齢者ふれあい交流会、障がい者支援講座など）	26
環境問題について（環境美化・エコ活動、自然保護観察会など）	34
地域の親睦について（地域のまつりなど）	29
地域の文化伝承について（伝統芸能など）	14
地域スポーツの振興について（スポーツ大会など）	19
教育について（地域と学校の連携、生涯学習教室など）	30
その他	10
計	264

分野別の地域の課題

【防犯について：43件】

「登下校時の見守り活動や青色防犯パトロールを強化してほしい」「不審者情報を知りたい」「外灯が少なく夜道が危ない」などの意見が出されている。

その解決策として、「警察や児童相談所、行政機関が連携して見守り活動や青色防犯パトロールに取り組む」「不審者情報を、保護者だけでなく登録希望者に拡大し、情報を周知する」「外灯を増設し、LED化を推進する」などが挙げられている。

【防災について：32件】

「津波避難ビルの利用方法が分からない」「防災訓練が不十分である」「指定避難所の備蓄品の状況が分からない」「防災無線が聞こえにくい」などの意見が出されている。

その解決策として、「津波避難ビルの体験ツアーを開催する」「ハザードマップをもとにした勉強会を開催する」「どこに何が備蓄されているか明確にする」「防災無線を繰り返し放送したり、代替の通信手段を配備したりする」などが挙げられている。

【子育てについて：27件】

「子ども向けのイベントがなく、子ども同士の交流が少なくなっている」「子育ての情報や悩み相談体制が十分でない」「子どもの預け先がない」などの意見が出されている。

その解決策として、「高齢者と子どもの交流を図る」「子育て世代の自治会加入を促進する」「子ども広場などの広報を充実し、学校と連携した相談の場を提供する」「一時預かり保育の体制を地域で構築する」などが挙げられている。

【地域福祉について：26件】

「高齢者や世代間交流の機会がない」「高齢者、障がい者に関する取組がほとんど行われていない」「健康や栄養相談などを気軽にできる場所がない」などの意見が出されている。

その解決策として、「公民館や放課後の学校を活用して交流会を開催する」「定期的に高齢者、障がい者の講座を地域で実施する」「図書館やスーパーなどで交流会を開催する」などが挙げられている。

【環境問題について：34件】

「ゴミの分別ができていない」「路上等へのゴミのポイ捨てが絶えない」「ゴミの排出抑制に取り組む必要がある」などの意見が出されている。

その改善策として、「分かり易い分別マニュアルを作成する」「分別用のゴミ箱を設置し、地域内の美化活動を推進する」「コンポストの取組を推進する」「環境活動家による講演会を開催する」などが挙げられている。

【地域の親睦について：29件】

「地域のまつりなど交流の機会が減っている」「自治会の活動がマンネリ化している」などの意見が出されている。

その改善策として、「人数や時間の制限を設け、感染防止対策を講じながら、事業を実施する」「自治会の役員を定期的に交代し、加入の促進を図る」などが挙げられている。

【地域の文化伝承について：14件】

「後継者が不足し、伝統芸能の継承が難しい」「地域の文化を知っている人が少ない」などの意見が出されている。

その改善策として、「団体の活動に他の地域からも参加しやすくする」「地域の文化を学校の授業で取り上げる」などが挙げられている。

【地域スポーツの振興について：19件】

「高齢化が進み、地域で開催するスポーツ大会の参加チームが減少している」「地域の運動会への参加者が固定化している」などの意見が出されている。

その改善策として、「高齢者でも参加できる大会に再構築する」「地域のイベントを集約し、子育て世代の参加を促す」「スポーツ団体のネットワークを作るため、連絡会を開催する」などが挙げられている。

【教育について：30件】

「地域と学校のつながりが薄く、学校の状況が分からないため、地域としての支援が難しい」「地域で子どもを育てる環境が整っていない」「公民館講座で学んだことを社会貢献につなげられるといい」などの意見が出されている。

その改善策として、「地域と学校が連携した交流事業を実施する」「オープンスクールを実施したり、学校支援ボランティアを通じて学校行事に参画する」「シニア世代が子ども達に出前講座を実施する」などが挙げられている。

【その他：10件】

その他の課題として、「自治会未加入世帯が多く、若い世代の加入が少ないため、活動が低調である」「あらゆる分野で情報発信が少ない」などの意見が出されている。
その解決策として、「自治会の未加入世帯を取り込んだ活動を展開する」「全ての住民に情報が届くような手段を考える必要がある」などが挙げられている。

6. 最後に、おうかがいします。

問22 宮崎市のまちづくりを発展させていくためには、特にどのような取り組みが必要だと思いますか。あなたのご意見をお聞かせください。

(主なご意見)

- ・ このアンケートを通じて、「地域魅力発信プラン」を知ったが、プラン集を見る方法などが分からないので、広く情報発信することが必要である。
- ・ 宮崎は、温暖な気候や自然、食の豊かさは他県にない魅力であるため、今まで以上にメディアを通じてPRして欲しい。
- ・ 活動に携わる人しか知らない情報が多いため、地域の人に知ってもらう取組が必要である。
- ・ 地域まちづくり推進委員会の活動に参加したいと思うが、どこに意思表示すればいいのか分からないため、参加しやすい仕組みづくりが必要である。
- ・ 市の取組は広報誌などで紹介されているが、職員と語り合う場があると、市民の認識や自覚が高まると思う。
- ・ 地域の行事や総会などに参加して、地域の良い点を知り、改善点を話し合うことが大事である。
- ・ 地域のつながり、人と人とのつながりが増えるよう、地域や学校での活動の機会が増えるといい。
- ・ 幅広い世代から意見を取り入れ、それを事業に反映する仕組みが必要であるため、地域の良い取組が他の地域にも広がるよう、事例の紹介を行うといい。
- ・ 退職した方は、地域の活動にかかわっていないため、企業等への呼びかけを含め、現役世代から地域の活動にかかわる環境作りを行政主導で行うといい。
- ・ 地域の活動は、高齢者に偏っているため、企業や民間団体の協力を得ながら取り組む必要がある。
- ・ 団地では、月1回の清掃に参加するだけでも、周囲の様子が分かるため、気軽に参加できる行事があるといい。
- ・ 子どもの頃に参加した行事は記憶に残るため、子ども向けのイベントを増やし、大人になってからも積極的にかかわれるようにするといい。
- ・ 自治会の会合は、SNSを活用するなど、集まることを前提にするのではなく、負担がかからないようにするといい。
- ・ 自治会の高齢化が進み、自主防災も形だけのものとなっているため、10年後は活動を維持できないと感じている。自治会の活動を継続させるには、自治会で財源を稼ぎ、活動を有償化していくといった仕組みづくりが必要である。
- ・ 自治会加入率が低下し、隣近所付き合いが希薄化することで、まちづくりのリーダーが育っていないが、具体的な対応策は思い浮かばない。
- ・ 地域協議会や地域まちづくり推進委員会の委員が固定化し、活動が停滞していると感じる。様々な意見を持つ老若男女と入れ替え、人事の刷新を行うといい。
- ・ 地区社会福祉協議会が行っている「ランチタイム」や「福祉まつり」は好評であるため、継続していきけるよう、地域まちづくり推進委員会が協力体制を築く必要がある。
- ・ 公民館の活動はまちづくりに欠かせないが、市全体の公民館活動には、何か物足りなさを感じる。

「食育と地産地消」に関するアンケート調査 集計結果

◆調査の目的

本市では、平成30年3月に「食育基本法」等に基づき「第3次宮崎市食育・地産地消推進計画」を策定し、食育・地産地消を推進してきた。本計画は、来年度が計画期間の最終年度となっており、令和5年度から令和9年度までの5年間を計画期間とする新たな推進計画を来年度末までに策定することとしている。市民の「食育と地産地消」についての調査を実施し、この計画に反映させる。

◆調査の概要

- (1) 調査期間 令和3年6月28日～令和3年7月9日 ※終了後も一定期間回収
 (2) モニター数 184人（郵送モニター118人、e-モニター66人）
 (3) 回答数 153人（郵送モニター112人、e-モニター41人） ※回答率83.2%
 (4) 担当課 農政部 農政企画課

◆調査結果概要

- 【問1】 「食育」という言葉は、「言葉も意味も知っていた」(79.6%)、「言葉は知っていたが意味は知らなかった」(20.4%)、「言葉も意味も知らなかった」(0.0%)であった。
- 【問2】 「食育」について、「関心がある」(62.4%)、「どちらかといえば関心がある」(32.9%)、「どちらかといえば関心がない」(4.0%)、「関心がない」(0.7%)の順となった。
- 【問3】 健全な食生活を送るため、「食育」を実践しているかの間には、「できるだけするようにしている」(55.5%)、「積極的にしている」(17.0%)、「したいと思っているが、あまりしていない」(15.0%)、「したいと思っているが、実際にはしていない」(8.5%)「したいとは思わないし、していない」「わからない」(各2.0%)であった。
- 【問3-1】 「食育」を実践していない理由としては、「関心はあるが食費を安くすることの方が重要だから」(38.3%)、「関心はあるが他のことで忙しいから」(34.0%)、「特に意識しなくても問題ないから」(8.5%)、「食育自体よく知らないから」(6.4%)、「関心がないから」(4.3%)、「情報が入手できないから」(2.1%)であった。
- 【問4】 朝食を食べているかの間には、「毎日食べる」(85.9%)、「週に5～6日食べる」(4.7%)、「週に3～4日食べる」(4.0%)、「週に1～2日食べる」「ほとんど食べない」(各2.7%)の順となった。
- 【問5】 朝食を食べない理由は、「時間がない」(36.4%)、「食欲がわかない」(22.7%)、「以前から食べる習慣がない」(13.6%)、「準備することが面倒」(4.6%)「減量(ダイエット)のため」「朝食が用意されていない」(0.0%)で、その他として、「空腹が健康によいと聞いた」や「休みの日は朝昼一緒」などの回答があった。
- 【問6】 食事の際の習慣は、「食べ残り廃棄を減らす努力をしている」(10.2%)、「配ぜんや後片付けをする」(9.9%)、「茶わんやおわんを持って食べる」(9.5%)、「いただきます・ごちそうさまを言う」(9.3%)、「自分で料理をしたり、家族の料理の手伝いをする」「肘をついたり、音をたてて食べない」(各8.2%)などとなった。
- 【問7】 同居人と食事は、「毎日食べる」(66.4%)、「週に5～6日食べる」(14.3%)、「一緒には食べない」(7.2%)、「週に1～2日食べる」(6.4%)、「週に3～4日食べる」(5.7%)となった。
- 【問8】 主食・主菜・副菜の3つがそろった食事を1日に2回以上食べる日は、「毎日食べる」(39.4%)、「週に5～6日食べる」(25.2%)、「週に3～4日食べる」(21.8%)、「週に1～2日食べる」(11.6%)、「ほとんどない」(2.0%)となった。
- 【問9】 「メタボリックシンドローム」という言葉は、「言葉も意味も知っていた」(94.1%)、「言葉は知っていたが意味は知らなかった」(5.3%)、「言葉も意味も知らなかった」(0.6%)であった。
- 【問10】 生活習慣病やメタボリックシンドロームの予防や改善のための食事を実践は、「たまに気をつけて実践している」(44.1%)、「いつも気をつけて実践している」(41.4%)、「あまり気をつけて実践していない」(12.5%)、「全く気をつけて実践していない」(2.0%)、「今はしていないが、近いうちにしようと思っている」「今もしていないし、しようと思わない」(各0.0%)となった。
- 【問11】 健康のために気をつけていることは、「バランスのとれた食事」(12.6%)、「規則正しい食事」「タバコを吸わない」(各11.4%)、「睡眠を十分に取る」(11.2%)、「便秘を整える」(10.1%)、「食べ過ぎない」「運動や散歩等を行う」(各9.1%)で、その他に「野菜をたくさん食べる」「毎日お茶を飲んでいる」などの回答があった。
- 【問12】 「地産地消」という言葉は、「言葉も意味も知っていた」(98.0%)、「言葉は知っていたが意味は知らなかった」(2.0%)、「言葉も意味も知らなかった」(0%)であった。
- 【問13】 国産品と輸入品の食料品が並んでいたら、どちらを購入するかは、「国産品」(56.9%)、「どちらかという国産品」(31.4%)、「特にこだわらない」(9.8%)、「輸入品」(1.3%)、「どちらかという輸入品」(0.6%)となった。
- 【問14】 宮崎市産や宮崎県産の地場産物は、「同じくらいの価格であれば購入したい」(56.2%)が最も多く、次いで「多少割高でも購入したい」(37.2%)、「少しでも高ければ購入しない」「産地のことは気にしない」(各3.3%)であった。
- 【問15】 地場産物の購入場所は、「スーパー・小売店」(62.7%)、「直売所や道の駅など」(34.9%)、「デパート・百貨店」「インターネット通販や宅配サービス」(各0.6%)で、その他では「直接生産者から」との回答があった。
- 【問16】 地場産物のよい点は、「新鮮」(44.7%)、「安全・安心」(31.9%)、「価格が安い・量が多い」(8.0%)、「おいしい」(7.4%)、「わからないがイメージがよい」(2.7%)、「栄養価が高い」(2.1%)、「環境にやさしい」(1.6%)で、その他では「規格外の商品でおいしい農産物が手に入る」との回答があった。
- 【問17】 宮崎の郷土料理(18品目中)は、1位「チキン南蛮」(25.9%)、2位「冷や汁」(25.7%)、3位「鶏の炭火焼」(15.6%)、4位「レタス巻き」(7.2%)、5位「ねりくり」(4.1%)の順となった。
- 【問18】 市内での販売量を増やすべき農林水産物(61品目中)は、1位「牛肉(宮崎牛など)」(7.6%)、2位「マンゴー」(5.3%)、3位「うなぎ」(4.9%)、4位「豚肉(みやざきブランドポークなど)」(4.6%)、5位「鶏肉(地頭鶏など)」(4.4%)の順となった。
- 【問19】 「MVP350」のポスターを見たことがあるかは、「見たことがない」(77.2%)、「見たことがある」(22.8%)となった。
- 【問20】 1日当たり350gの野菜摂取の推奨のことは、「知っていた」(58.4%)、「知らなかった」(41.6%)となった。
- 【問21】 1日当たり350gの野菜摂取の推奨を知ってから、日ごろの食生活は改善されたかは、「知る前よりは野菜を食べるようになった」(48.3%)が最も多く、次いで「知っているが何も変えていない」(28.1%)、「知る前から350g以上食べていた」(23.6%)となった。
- 【問22】 1日平均およそ何gの野菜を摂取しているかについては、「2皿(140g)」(26.2%)が最も多く、次いで「1皿(70g)」(23.4%)、「3皿(210g)」(20.0%)の順で、「5皿(350g)・6皿・7皿以上」と答えたのは、全体の19.3%であった。

- 【問23】 野菜(350g)を摂取できない理由については、「野菜を積極的にとる意識をしていない」(23.1%)、「忙しく、料理を作る時間がない」「料理をするのが苦手」(各12.4%)、「外食やテイクアウト、ファストフードやコンビニを利用することが多い」(9.9%)、「野菜が苦手」(9.1%)、「食事を抜くことがある」(5.8%)となった。「その他」の理由としては、「野菜の価格が高い」や「野菜主体の料理が作れない」、「少食」などの回答があった。
- 【問24】 農林漁業の体験があるかは、「体験したことがある」(50.3%)、「体験したことがない」(49.7%)となった。
- 【問25】 体験した農林漁業は、「イモ掘りや野菜・果物の収穫」(19.6%)が最も多く、次いで「田植えや稲刈りなどの米作り」「自宅などの家庭菜園や市民農園などでの野菜等の栽培」(各15.3%)、「魚釣りや潮干狩りなどの漁業」(14.9%)、「種まきや苗の植付けなどの農作業」(12.0%)の順となった。
- 【問26】 宮崎市の食や食育・地産地消について行政(宮崎市)に期待することは、「宮崎の地産地消品を購入できる場所や機会をもっと作って欲しい」「子供に食に関心が持てるような食育の体験など学ぶ場所を増やしてほしい」「他の地域と同じではなく、違う視点で活動されることを期待している(例えば農業体験ができるような施設の整備や運営など)」「空いている土地など貸し農園などの場を作って体験などの場をもっと増やしてほしい」「宮崎産の生産品の直売会など定期的(季節的)に開催してほしい」「宮崎ブランドの価値を高め、野菜セットや果物セット等セット販売してほしい」「宮崎には自然豊かな そして安心、安全な食べ物がたくさんあるので、これを大々的にPRできないでしょうか」「宮崎は、農林水産物が豊富で、新鮮な食品が多いので、市民に多くの物産が低価格で手に入るような、産地直送品のお店を増やしてほしい」「学校給食や公共機関(市役所など)で地産地消や食育について、取り組んで対応してほしい。また、食堂なども協力しながらアピールしてほしい」「安価で安全な食を維持できるよう農業が充実するような行政を期待したい」などの意見・要望があった。

◆調査結果まとめ

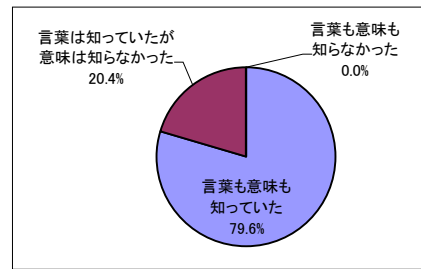
市民の食育への関心は高く、実践している、するようにしているという割合も高かった。
 また、地産地消については認知度が非常に高く、地場産物を購入したいという市民が多かった。
 しかし、野菜摂取量は、厚生労働省が指標としている1日当たり350gより低い市民が多く、理由として「積極的にとる意識をしていない」「忙しく料理を作る時間がない」「料理を作るのが苦手」という意見が多く、その他「野菜の価格が高い」という意見もあった。
 「1日当たり350g以上の野菜を食べることが推奨されている」ことを知っている市民は半数以上いたが、「MVP350」ポスターを見たことがある割合は低く、認知度を上げるためには、今まで以上に「MVP350」を周知していく必要がある。

◎調査結果

1. 食育について、お伺いします。

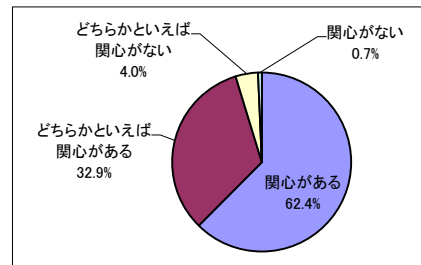
問1 あなたは、「食育」という言葉やその意味をご存じでしたか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 言葉も意味も知っていた	121	79.6%
2 言葉は知っていたが意味は知らなかった	31	20.4%
3 言葉も意味も知らなかった	0	0.0%
計	152	100.0%
無回答	1	-



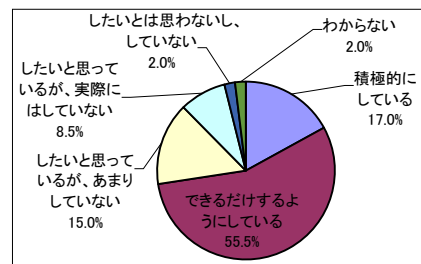
問2 あなたは、「食育」に関心がありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 関心がある	93	62.4%
2 どちらかといえば関心がある	49	32.9%
3 どちらかといえば関心がない	6	4.0%
4 関心がない	1	0.7%
計	149	100.0%
無回答	4	-



問3 あなたは、日頃から健全な食生活を送るため、「食育」を何らかの形で実践していますか？あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 積極的にしている	26	17.0%
2 できるだけするようにしている	85	55.5%
3 したいと思っているが、あまりしていない	23	15.0%
4 したいと思っているが、実際にはしていない	13	8.5%
5 したいとは思わないし、していない	3	2.0%
6 わからない	3	2.0%
計	153	100.0%
無回答	0	-



【問3で、「3から5」を選んだ方にお伺いします。(39名)】

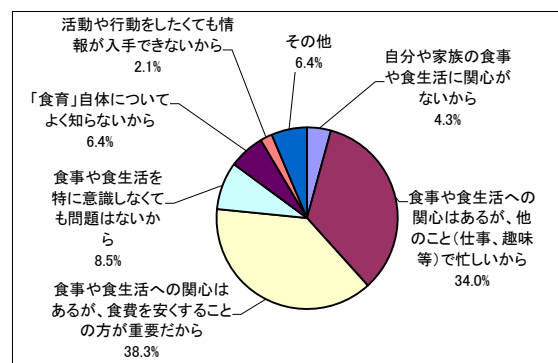
問3-1 あなたが食育を実践していない理由は何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 自分や家族の食事や食生活に関心がないから	2	4.3%
2 食事や食生活への関心はあるが、他のこと(仕事、趣味等)で忙しいから	16	34.0%
3 食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	18	38.3%
4 食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	4	8.5%
5 「食育」自体についてよく知らないから	3	6.4%
6 活動や行動をしたくても情報が入手できないから	1	2.1%
7 その他	3	6.4%
計	47	100.0%
無回答	110	-

※複数回答する人がいたため、回答数が回答者数を越えている

(その他)

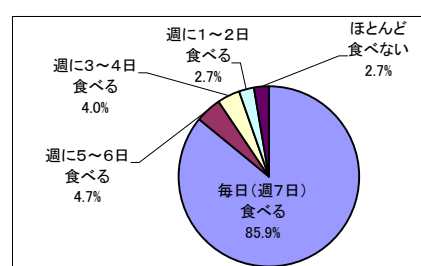
- ・何をしたらいいのわからない
- ・できるだけ家族のことを思って毎日食事を作っている
- ・家庭菜園をするスペースがない



2. 食生活等の状況について、お伺いします。

問4 あなたは、朝食を食べていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 毎日(週7日)食べる	128	85.9%
2 週に5~6日食べる	7	4.7%
3 週に3~4日食べる	6	4.0%
4 週に1~2日食べる	4	2.7%
5 ほとんど食べない	4	2.7%
計	149	100.0%
無回答	4	-



【問4で、「2から5」を選んだ方にお伺いします。(21名)】

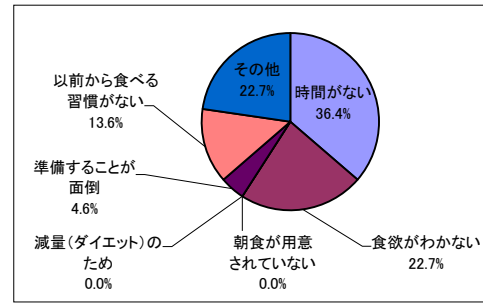
問5 毎日朝食を食べない、最も大きな理由は何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 時間がない	8	36.4%
2 食欲がわかない	5	22.7%
3 減量(ダイエット)のため	0	0.0%
4 朝食が用意されていない	0	0.0%
5 準備することが面倒	1	4.6%
6 以前から食べる習慣がない	3	13.6%
7 その他	5	22.7%
計	22	100.0%
無回答	132	-

※複数回答する人がいたため、回答数が回答者数を越えている

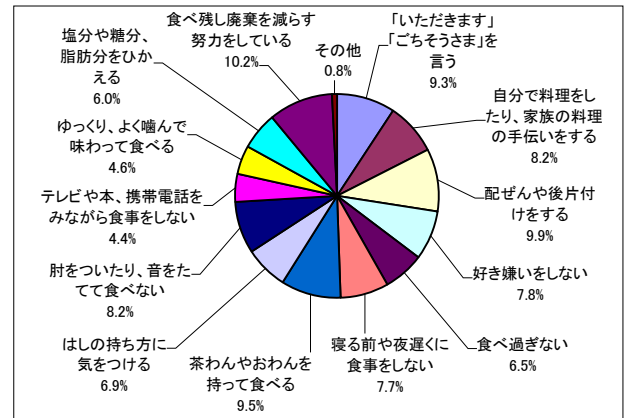
(その他)

- ・空腹が健康によいと聞いたので
- ・休日はいつもよりゆっくり起きるため
- ・仕事の休みの日は、食べる習慣がない
- ・土日は朝と昼の食事を一度に済ませるため
- ・夫の休日、庭いじりしていると昼前になることが多い。そもそも朝食は取らないほうが良いと夫は言う。



問6 あなたは、食事の際に、習慣にしていることがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 「いただきます」「ごちそうさま」を言う	109	9.3%
2 自分で料理をしたり、家族の料理の手伝いをする	97	8.2%
3 配ぜんや後片付けをする	117	9.9%
4 好き嫌いをしない	92	7.8%
5 食べ過ぎない	76	6.5%
6 寝る前や夜遅くに食事をしない	90	7.7%
7 茶わんやおわんを持って食べる	112	9.5%
8 はしの持ち方に気を付ける	81	6.9%
9 肘をついたり、音をたてて食べない	97	8.2%
10 テレビや本、携帯電話をみながら食事をしない	52	4.4%
11 ゆっくり、よく噛んで味わって食べる	54	4.6%
12 塩分や糖分、脂肪分をひかえる	70	6.0%
13 食べ残し廃棄を減らす努力をしている	120	10.2%
14 その他	9	0.8%
計	1176	100.0%
無回答	0	-



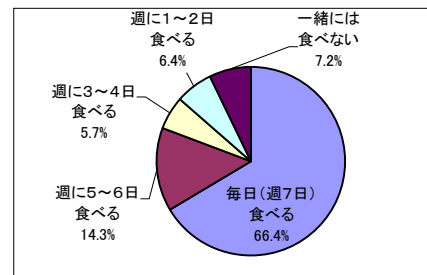
(その他)

- ・家庭菜園の収穫物を1品は料理に取り入れます
- ・安心、安全なものを選んで食べる
- ・地産地消
- ・朝、味噌汁は必ず食べる
- ・家族全員そろって食事をとれるように努めている
- ・食事の周りの和を気にする
- ・食事を作ってもらっているので 出されたものを食べるのみの
- ・バランスの良い献立
- ・分かっているけどおいしく好きに食べたい。年齢的に…

【ご家族等と同居されている方にお尋ねします。ひとり暮らしの方は、問8へお進みください。】

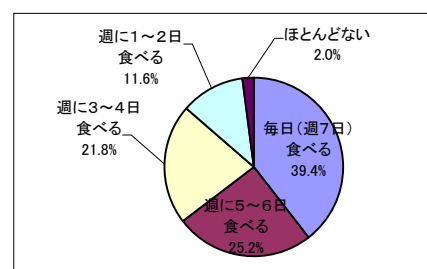
問7 あなたは、同居されている方と朝食又は夕食を、どの程度一緒に食べていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 毎日(週7日)食べる	93	66.4%
2 週に5~6日食べる	20	14.3%
3 週に3~4日食べる	8	5.7%
4 週に1~2日食べる	9	6.4%
5 一緒には食べない	10	7.2%
計	140	100.0%
無回答	13	-



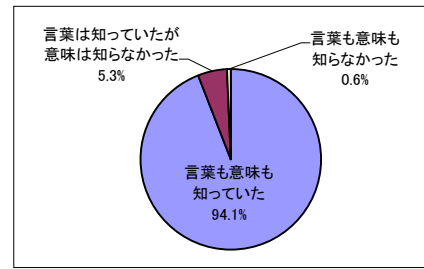
問8 あなたは、主食・主菜・副菜(上記説明文を参照)の3つがそろった食事を、1日に2回以上食べる日が週に何日ありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 毎日(週7日)食べる	58	39.4%
2 週に5~6日食べる	37	25.2%
3 週に3~4日食べる	32	21.8%
4 週に1~2日食べる	17	11.6%
5 ほとんどない	3	2.0%
計	147	100.0%
無回答	6	-



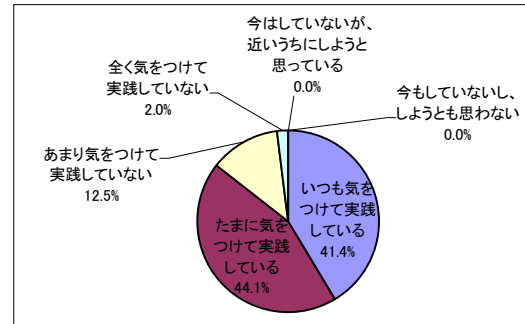
問9 あなたは、「メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)」という言葉やその意味をご存じでしたか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 言葉も意味も知っていた	143	94.1%
2 言葉は知っていたが意味は知らなかった	8	5.3%
3 言葉も意味も知らなかった	1	0.6%
計	152	100.0%
無回答	1	-



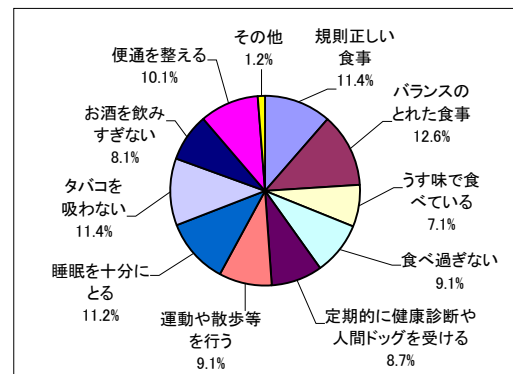
問10 あなたは、糖尿病などの生活習慣病や内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)の予防や改善のために、普段から減塩、油ものを控える野菜の摂取などに気をつけた食生活を実践していますか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 いつも気をつけて実践している	63	41.4%
2 たまに気をつけて実践している	67	44.1%
3 あまり気をつけて実践していない	19	12.5%
4 全く気をつけて実践していない	3	2.0%
5 今はしていないが、近いうちにしようと思っている	0	0.0%
6 今もしていないし、しようとも思わない	0	0.0%
計	152	100.0%
無回答	1	-



問11 あなたが、健康のために気をつけていることは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 規則正しい食事	101	11.4%
2 バランスのとれた食事	111	12.6%
3 うす味で食べている	63	7.1%
4 食べ過ぎない	80	9.1%
5 定期的に健康診断や人間ドッグを受ける	77	8.7%
6 運動や散歩等を行う	80	9.1%
7 睡眠を十分にとる	99	11.2%
8 タバコを吸わない	101	11.4%
9 お酒を飲みすぎない	72	8.1%
10 便通を整える	89	10.1%
11 その他	11	1.2%
計	884	100.0%
無回答	0	-

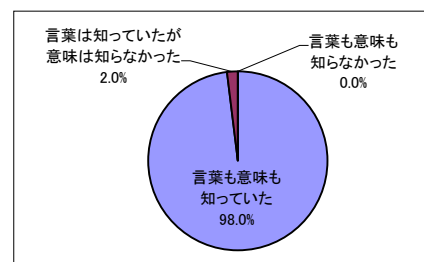


- (その他)
- ・毎身体重を量る(記録はしてない)
 - ・色どりで食欲が沸く工夫をしている。堅いものをよく噛むようにとり入れている(根菜・豆等ある程度かために処理)
 - ・野菜をたくさん食べる
 - ・快食、快眠、快便を心がけている
 - ・食事は作ってもらっているので、出されるものを食べるのみ。家族でも健康について共有しないと、個人でバランスの良い食事というのは無理がある。
 - ・酒はほとんど飲まない、タバコは吸わない
 - ・「整身・整息・整心」と「調身・調息・調心」
 - ・海塩をとる。質の良い油で調理する。素材を買って調理して食べる
 - ・食材にこだわる
 - ・毎日お茶を飲んでいる

3. 地産地消について、お伺いします

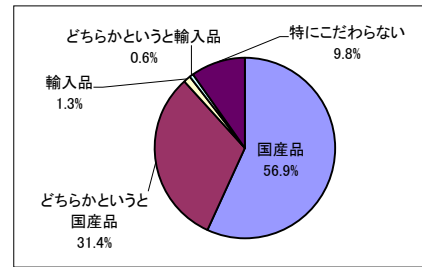
問12 あなたは、「地産地消」という言葉やその意味をご存知でしたか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 言葉も意味も知っていた	150	98.0%
2 言葉は知っていたが意味は知らなかった	3	2.0%
3 言葉も意味も知らなかった	0	0.0%
計	153	100.0%
無回答	0	-



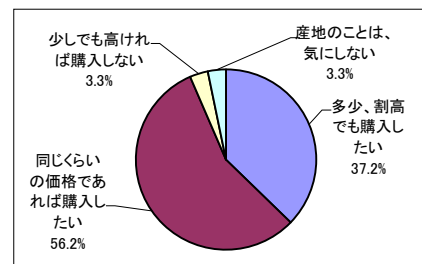
問13 あなたが、食料品を買う際に、国産品と輸入品が並んでいる場合、どちらを選択しますか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 国産品	87	56.9%
2 どちらかという国産品	48	31.4%
3 輸入品	2	1.3%
4 どちらかという輸入品	1	0.6%
5 特にこだわらない	15	9.8%
計	153	100.0%
無回答	0	-



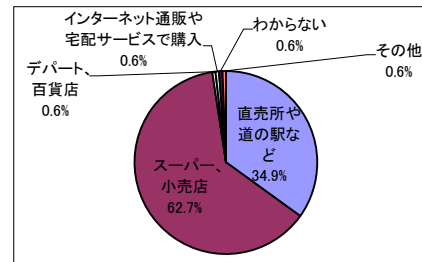
問14 あなたは、宮崎市産や宮崎県産の農林水産物(地場産物)とわかる食品であれば、購入したいと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 多少、割高でも購入したい	57	37.2%
2 同じくらいの価格であれば購入したい	86	56.2%
3 少しでも高ければ購入しない	5	3.3%
4 産地のことは、気にしない	5	3.3%
計	153	100.0%
無回答	0	-



問15 あなたは、「地場産物」をどこで買いますか。もっともよく買うところを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 直売所や道の駅など	58	34.9%
2 スーパー、小売店	104	62.7%
3 デパート、百貨店	1	0.6%
4 インターネット通販や宅配サービスで購入	1	0.6%
5 わからない	1	0.6%
6 その他	1	0.6%
計	166	100.0%
無回答	0	-

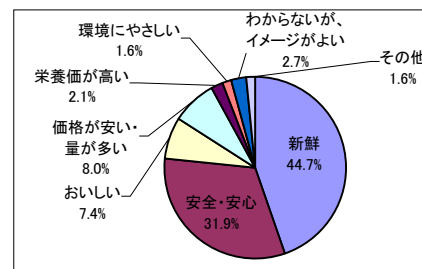


※複数回答する人がいたため、回答数が回答者数を越えている

(その他)
・直接生産者から

問16 あなたは、「地場産物」のよい点は、どのようなところにあると思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

選択肢	回答数	割合
1 新鮮	84	44.7%
2 安全・安心	60	31.9%
3 おいしい	14	7.4%
4 価格が安い・量が多い	15	8.0%
5 栄養価が高い	4	2.1%
6 環境にやさしい	3	1.6%
7 わからないが、イメージがよい	5	2.7%
8 その他	3	1.6%
計	188	100.0%
無回答	3	-



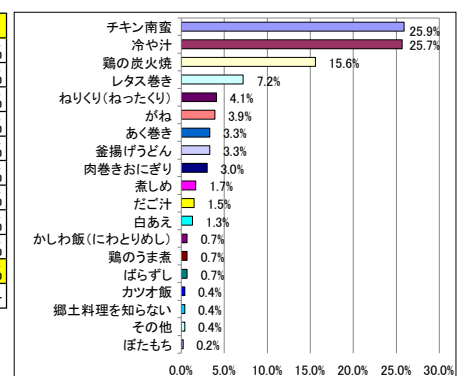
※複数回答する人がいたため、回答数が回答者数を越えている

(その他)
・地域に貢献できる
・規格外の商品でもおいしい農産物が手に入る

問17 あなたが考える「宮崎の郷土料理」は何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

順位	選択肢	回答数	割合
1	チキン南蛮	119	25.9%
2	冷や汁	118	25.7%
3	鶏の炭火焼	72	15.6%
4	レタス巻き	33	7.2%
5	ねりくり(ねったくり)	19	4.1%
6	がね	18	3.9%
7	あく巻き	15	3.3%
7	釜揚げうどん	15	3.3%
9	肉巻きおにぎり	14	3.0%
10	煮しめ	8	1.7%
11	だご汁	7	1.5%

順位	選択肢	回答数	割合
12	白あえ	6	1.3%
13	かしわ飯(にわとりめし)	3	0.7%
13	鶏のうま煮	3	0.7%
13	ばらずし	3	0.7%
16	カツオ飯	2	0.4%
16	郷土料理を知らない	2	0.4%
16	その他	2	0.4%
19	ぼたもち	1	0.2%
	だご揚げ	0	0.0%
	計	460	100.0%
	無回答	3	-



(その他)
・鶏のたたき、辛麺
・ぬたいも(さといもを茹で、その一部をすりつぶして味噌とさとう、すりごまを合わせてあえ衣を作り、残りのさといもとあえた料理。

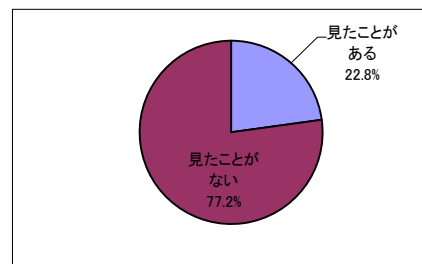
問18 宮崎市では、次のような多種多様な農林水産物が生産・水揚げされています。しかしながら、その多くが県外の大消費地向けに出荷されているという状況もあります。今後、市内における販売量をさらに増加させ、市民が購入・利用できる機会を増やすべきだと思う品目は何ですか。あてはまるものを5つまで選んでください。

順位	選択肢	回答数	割合	順位	選択肢	回答数	割合
1	牛肉(宮崎牛など)	55	7.6%	33	ブロッコリー	7	1.0%
2	マンゴー	38	5.3%	33	その他えび類(甘えびなど)	7	1.0%
3	うなぎ	35	4.9%	35	ばれいしょ(じゃがいも)	6	0.8%
4	豚肉(みやざきブランドポークなど)	33	4.6%	35	にがうり(ゴーヤー)	6	0.8%
5	鶏肉(地頭鶏など)	32	4.4%	35	温州みかん	6	0.8%
6	スイートコーン	30	4.2%	35	たけのこ	6	0.8%
7	日向夏	29	4.0%	39	パパイヤ	5	0.7%
8	早期水稲	28	3.9%	39	パテ	5	0.7%
9	しいたけ(生椎茸・干し椎茸)	21	2.9%	39	まぐろ類	5	0.7%
10	ピーマン	20	2.8%	39	さば類	5	0.7%
10	トマト・ミニトマト	20	2.8%	39	ふぐ類(とらふぐなど)	5	0.7%
10	なす(佐土原ナスなど)	20	2.8%	44	洋ラン(コチオウランなど)	4	0.5%
13	かんしょ(さつまいも)	19	2.6%	45	らっきょう	3	0.4%
13	アボカド	19	2.6%	45	さといも	3	0.4%
15	たまご(鶏卵)	18	2.5%	45	不知火(デコボン)	3	0.4%
15	いせえび	18	2.5%	45	えのきだけ	3	0.4%
17	かつお	16	2.2%	45	たい類(まだい・ちだいなど)	3	0.4%
18	大根・干し大根・せんぎり大根	15	2.1%	45	かます	3	0.4%
18	牛乳	15	2.1%	45	はも	3	0.4%
20	きゅうり	14	1.9%	52	大葉(しそ)	2	0.3%
20	いちご	14	1.9%	52	にんじん	2	0.3%
22	メロン	13	1.8%	52	しいら	2	0.3%
23	かぼちゃ(黒皮かぼちゃなど)	12	1.7%	55	キク	1	0.1%
23	きんかん	12	1.7%	55	ユリ	1	0.1%
23	茶	12	1.7%	55	トルコギキョウ	1	0.1%
23	しらす(ちりめんじゃこ)	12	1.7%	55	さわら	1	0.1%
27	キャベツ	9	1.3%	55	たちうお	1	0.1%
27	しょうが	9	1.3%		ダリア	0	0.0%
27	高岡文旦	9	1.3%		デルフィニウム	0	0.0%
27	貝類(あわび・とこぶし・かきなど)	9	1.3%		計	721	100.0%
31	すいか	8	1.1%		無回答	0	-
31	いわし類・あじ類	8	1.1%				

4. 野菜摂取について、お伺いします

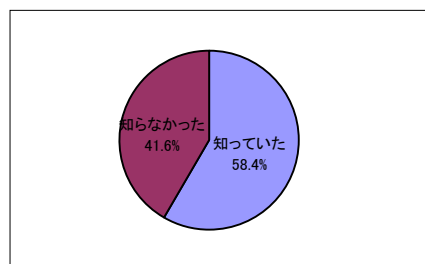
問19 あなたは、最後のページにある「MVP350」のポスターを見たことがありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 見たことがある	34	22.8%
2 見たことがない	115	77.2%
計	149	100.0%
無回答	4	-



問20 あなたは、「健康の維持・増進のために1日当たり350g以上の野菜を食べることが推奨されていること」を知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 知っていた	87	58.4%
2 知らなかった	62	41.6%
計	149	100.0%
無回答	4	-

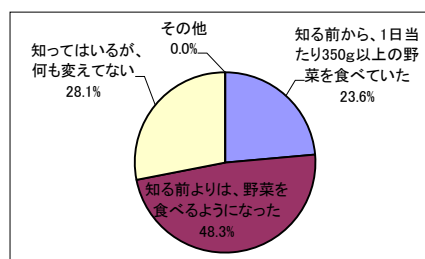


【問20で「1 知っていた」と回答した方にお伺いします。(87名)】

問21 あなたは、「健康の維持・増進のために1日当たり350g以上の野菜を食べることが推奨されていること」を知ってから、日ごろの食生活を改善されましたか。もっともあてはまるものを1つ選んでください。

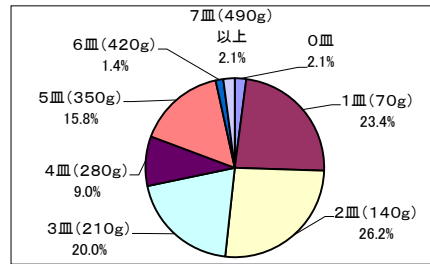
選択肢	回答数	割合
1 知る前から、1日当たり350g以上の野菜を食べていた	21	23.6%
2 知る前よりは、野菜を食べるようになった	43	48.3%
3 知っているが、何も変えてない	25	28.1%
4 その他	0	0.0%
計	89	100.0%
無回答	64	-

※複数回答する人がいたため、回答数が回答者数を越えている



問22 あなたは、1日平均およそ何gの野菜を摂取していると思いますか。最終ページの1皿当たり70gの野菜を使った料理の例の写真を参考に、毎日およそ何皿の野菜料理を食べていると思いますか。もっともあてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合	野菜摂取量	回答数	割合
1 0皿	3	2.1%	350g未満	117	80.7%
2 1皿(70g)	34	23.4%			
3 2皿(140g)	38	26.2%			
4 3皿(210g)	29	20.0%			
5 4皿(280g)	13	9.0%			
6 5皿(350g)	23	15.8%	350g以上	28	19.3%
7 6皿(420g)	2	1.4%			
8 7皿(490g)以上	3	2.1%			
計	145	100.0%			
無回答	8	-			

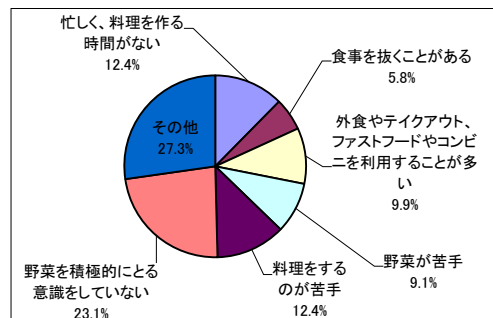


【問22で、「1から5」を選んだ方にお伺いします。(117名)】

問23 あなたが、1日に必要な野菜(350g)を摂取できない最も大きな理由は何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 忙しく、料理を作る時間がない	15	12.4%
2 食事を抜くことがある	7	5.8%
3 外食やテイクアウト、ファストフードやコンビニを利用することが多い	12	9.9%
4 野菜が苦手	11	9.1%
5 料理をするのが苦手	15	12.4%
6 野菜を積極的にとる意識をしていない	28	23.1%
7 その他	33	27.3%
計	121	100.0%
無回答	36	-

※複数回答する人がいたため、回答数が回答者数を越えている



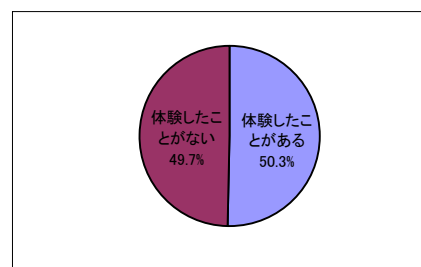
(その他)

- ・350gに達していないかもしれない
- ・いい量だと思っていた
- ・意識が低かったと思う
- ・意識しているがなかなか350gまでは手が届かない現状
- ・子どもが食べてくれないため
- ・小食なので、何もかも量が少ないため
- ・積極的にとる意識はあるが、350gを分けてたべてもおなかがいっぱいになって、他の栄養がとれない
- ・そんなに野菜を食べたら、他のものが食べられないから
- ・食べる野菜は庭で自分で栽培している。不自由はしない
- ・朝食で固形物をたべないため不足する
- ・できる限り350gとってます
- ・できるだけ350gに近い野菜を食べてます
- ・年齢的にそれだけの量(350g)は絶対食べられません
- ・バランスよく食事を摂ろうと考えているが、野菜のかさが多くなると食べれなくなる
- ・昼と夜しか食べないので、量が食べれない。
- ・メニューを思いつかない
- ・めんどう
- ・野菜価格が高い。野菜ジュースを選ぶときがある
- ・野菜の摂取以外に果物をよく食べるので十分と思う
- ・量をとることが難しい
- ・基本作ってもらってますが、朝食は作る時間がないと感じています
- ・考えてはいるが なかなか取れない
- ・疲れて食べたいという気持ちになれない
- ・品を変えて(多種類)の野菜を使用していないのが現状か
- ・野菜主体の料理がうまく作れない
- ・量的に無理が有る、不足分はサプリで補う

5. あなたが農林水産業に触れる機会について、お伺いします。

問24 あなたは、農林漁業体験をしたことがありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 体験したことがある	77	50.3%
2 体験したことがない	76	49.7%
計	153	100.0%
無回答	0	-

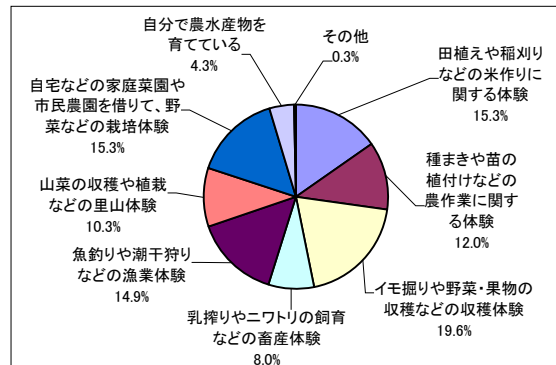


【問24で「1 体験したことがある」と回答した方にお伺いします。(77名)】

問25 あなたが経験した農林漁業体験は、どのような体験でしたか。あてはまるものをすべて選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 田植えや稲刈りなどの米作りに関する体験	46	15.3%
2 種まきや苗の植付けなどの農作業に関する体験	36	12.0%
3 イモ掘りや野菜・果物の収穫などの収穫体験	59	19.6%
4 乳搾りやニワトリの飼育などの畜産体験	24	8.0%
5 魚釣りや潮干狩りなどの漁業体験	45	14.9%
6 山菜の収穫や植栽などの里山体験	31	10.3%
7 自宅などの家庭菜園や市民農園を借りて、野菜などの栽培体験	46	15.3%
8 自分で農水産物を育てている	13	4.3%
9 その他	1	0.3%
計	301	100.0%
無回答	76	-

(その他)
・アサリ漁



6. 最後に、お伺いします。

問26 宮崎市の食や食育・地産地消について、行政(宮崎市)に期待することがありましたら、ご意見をお聞かせください。

【主な意見】(回答者数: 104人)

【地産地消】

佐土原ナスは値段が高くて、価値のある味だと思い、よく買って食べています。全国の人たちに食べてもらえたらよいのになあと思っています。
よく地産地消を目にすることが多いのでこのままでも良いと思います
コロナ禍で自宅で利用できる(地産地消)方法がないか?
宮崎産の野菜を食べましょう★スーパーの地産地消コーナー、道の駅等に売っています←このようなチラシ、ポスターを貼るくらいで良いと思います。
市民がより県産のものをとりやすいシール等があるとよいです。
宮崎の美味しい食を、市民が積極的に買って食べるようになるといい、と思います。産直などでは、安く新鮮なものが手に入ります。特に夏野菜は、他県のを買おうとは思いません。もしかしたら、市民は忙しいので、調理する時間がないのかもしれない。
宮崎の地産地消品を購入できる場所や機会をもっと作って欲しい。
マンゴー、ミニトマト、ピーマンなど一部のものとらわれることなく、常に新規に地産地消を開拓してゆく必要があると思われれます。
できるだけ地産地消に努めております
宮崎市市場の特定日を決めて、一般市民が、購入できる日を指定して欲しい。地産商品が、集荷される場所であるが、一般市民は、入場禁止になっているので、何が集荷されているかすら不明である。地産地消は、「其所当たり」を解放されないと知る縁が無い。

【食育】

現在コロナウイルスの影響で、子どもたちの調理実習が行えていない現状があります。自宅で親と一緒に学ぶことと友達と一緒に学校で学ぶことは、やっぱり性質が変わってくると思います。我が子は小6ですが昨年も今年も調理実習は行えないことになりました。感染対策は必要かもしれませんが、学びの機会は奪わないで欲しいと思います。
野菜摂取について、バランスよく栄養素を摂取できるように、野菜の選び方を広報して欲しいです。特に宮崎市産の野菜には、主にどのような栄養素が含まれているのかが知りたいです。また、佐土原ナスや黒皮カボチャ、パパイア、ラッキョウなど旬の野菜はどのように調理をすればバランスの取れた食事になるのか、栄養士の方の助言をいただきたいです。
市内の味噌会社の方が「地域の子供に話を聞くと、家で手作りの味噌汁を飲んだことがないそうだと嘆いておられました。食育は大事だと思います。ニュースで子供が魚をさばく体験を楽しむようにしているのを見ました。子供の食育にもっと力を入れイベントなども増やすといいと思います。また、自分で育て収穫する体験などができるといいです。
コロナで難しいかもしれませんが、食育のイベントをまたやって欲しいです!!
子どもがいるので、食育を実践したいと思いつつも、よく知らない。もっと周知する機会があるとうれしい。
子供に食育の体験など学ぶ場所を増やしてほしい。食に関心が持てるような…。
食育においては、幼少期からの意識づけが重要であると思われれます。保・幼・小に花や野菜の苗を(希望する施設に)無償で配布し、育てることの楽しさ、収穫して食べることで食への関心を持たせることが大事だと思います。地産地消については「じもみやLOVE」キャンペーンを大々的に行い、地元の農産物を5商品購入すると一つおまけなどとして、とにかく手にとってもらう機会を増やす努力をするべきだと思います。
地産地消については、生活に取り入れやすいと思っています。食育については、学校やメディアで取り上げて頂けると、もっと浸透するのかもしれない。
周囲にこんなに新鮮な野菜が並んでるのに、なぜ宮崎県の野菜摂取量が少ないか、ふしぎです。おいしいものがありすぎるからかな。行政に対する希望、難しい。個人の問題です。各自が心掛ける事、子どもの頃からの食習慣に問題が多いのでは。給食があるのだから毎日子供達への指導はできてると思うが、家での大人の姿勢に問題があるのかな。

【体験】

他の地域と同じではなく、違う視点で活動されることを期待しています。例えばですが、農業体験ができるような施設の整備や運営など
以前、イベントで「350gの野菜をかごにセットしてみてください」というゲームを体験しました。その時に初めて350gという量を意識するようになりました。こんなに多いの! ?と驚きました。体感することは大事だと思います。参加賞もいただいた記憶があります。一石二鳥でした。
農業体験をできるイベントがいっぱいあったらいい。してほしい。(子供を対象とした)
宮崎の野菜はおいしいです。様々な料理のイベントを若い人向けに料理教室などしてほしいです。
子どもにも学ぶ機会をもっと増やして欲しいし、親子で学べる講座などがあるとよい。
畑作りをしたくてもできない(場所がない)ことが多いと感じます。田んぼや畑を市として安く提供してもらえる場所が近くにあると大いに利用したい。また、その場所がわからない。
農作物のできるまでを、体験させてはどうでしょうか。
子どもたちにいろんな農業などの体験をさせてあげる機会を増やして、教育につなげてほしい。そうすると、将来の宮崎での地産地消や食育などに関心を持ってくれる人も増えると思うから。

野菜をおいしく食べるよう、身近に作り方を教えて欲しい
各テレビ番組、または宮崎の食材を使った明日のメインおかず(魚と肉の2種類)を放映してください。
今は感染症が心配なので、期待していません。もしも、感染症がなければ、体験できるようなイベントがあったら参加してみたいと思います。
手軽に楽しめる家庭菜園の市民講座の開催
空いている土地など貸し農園などの場を作って体験などの場をもっと増やしてほしい。

【生産】

今だからこそペランダや小さい鉢等で育てることをテレビで放送して、茶の間の人々が好んで作れるようにしてほしい
宮崎産のものが手軽に買えるように、それを生産して下さっている農家の方々への支援を手厚くしてほしい
宮崎の野菜のおいしさをもっと県民が誇りに思ってもらいたい。甘みや栄養価がすごく高い。
野菜の種類も多く、新鮮なものが手に入りやすいが、時間がなく、野菜不足になりやすい。いろいろな種類のミールキットなどがあると、もっと野菜を消費できると思う。
農家さんが万が一の時に助けてあげられる制度を作ってあげてください。後継者のいない農家さんや漁師さん等の事業をカバーできる組織を作る、または組織を援助する仕組みを作ってください。事業継続をしていただいて、宮崎の第一次産業を守ってほしいと思います。
美味しい時もありますが、売れ残って不味いときもあります。収穫日を書いてもらいたいです。

【販売】

少しでも安価で県外向けでなく、県内在住の方々に広まる物をお願いいたします。
宮崎市で生産されるものは、市民が進んで食べられるよう格安で販売される仕組みができると嬉しいですね。
宮崎駅前で朝市を計画してほしい。免許証の返納をしたので”道の駅”までいけなくなった。交通の便の良い街中で新鮮な野菜や果物を買に行きたい。ドラッグストア(コスモスなど)でも野菜やお肉が買えるようになり便利になったが売り場が狭いので拡充するようお願いしてほしい。コロナ禍で”おうち時間”が長く食べる量が減った。食べなくてもよいくらいだが、お昼になったから何か少したべようかなという日も多い。飲食の時に話してしまうので、用心の為、食事は時間をずらして一人で食べるようになった。(県内在住の)子供たちが時々帰省しても、ここ一年半近く、一回も外食せず、家で手作りで地産地消でした。
地元産(宮崎産)の食品を買えば宮崎ポイントを付けるなど、地元産の食品を買うメリットをわかりやすくする。ポイントがたまれば地元食品と交換などを行えばよいと思う
聞き取り調査を頻繁に行い、スーパー等に反映してほしい
弁当店や宅配店のメニューに地産地消がもっと広がるように献立コンクールやメニューの公募等をして、行政が後押しするといったのでは。行政というと、どうしても”たてわり”でぎくしゃくな面が感じられる。横つなぎの連携で積極的に前向きにこだわりのない取り組みを期待します。
宮崎産の生産品の直売会など定期的(季節的)に開催しては、いかがでしょうか。
農家の方が苦勞して作った野菜が売れ残って捨てられている光景を見ることがある。なさけなくなる。スーパーなど売り手は、販売、仕入れをよく考えて入荷してほしい。
市民が地産地消に理解し、購入増となるよう日頃から取組に期待します(出前講座等を利用した取り組み)
現在、コロナ禍で消費が低下していると思われます。市民としても何らかの形で貢献出来たら…と切に願います!!
直売所における品種・量、それらを使ったことを知らせる料理の提供、場所が家族で(4~5人以上)利用できる店が街中に集中。郊外でゆったり景色も楽しめるタウンがあったら、もっと健康的?な食事が摂れそうです。タウン=一店舗でもスペースが広げれば
宮崎ブランドの価値を高め、野菜セットや果物セット等セット販売があると贈り物として活躍できそう♪
1. 大塚台には近くにスーパーは比較的多く営業しているが、産地直売の商店は、「百笑むら」程度。大塚町の鮮度市場も鮮魚を主体に地産?かと思うが、道の駅並みの商店がもう少し拡大されたら良い。コンビニばかり増加している
2. コンビニは手頃であり、割高であるが、料理する時間が少ない独身族に人気があるのか?割安にして地産の商品を置く方法も考えられるのではないかな?
3. コスモスに地場の野菜等設置される様になり比較的割安で購入出来る
宮崎に住むようになって一番感じたことは、「食べ物がとてもおいしい」ということです。旬の食材をおいしく食べられることが本当に良いことだと思っています。道の駅などで、野菜等購入することが多いですが、先ほどの質問で県外に多く出荷されているものがあると知り、もっとたくさんの食材を市内で販売してほしいと思いました。
野菜、魚類、肉類を利用した新しいメニューの公的機関・料理店の協働による開発。
学校給食や公共機関(市役所など)で地産地消や食育について、取り組んで対応してほしい。また、食堂なども協力しながらアピールしてほしい。

【PR】

佐土原ナスは値段が高くて、価値のある味だと思い、よく買って食べています。全国の人たちに食べてもらえたらよいのかなと思っています。
とても食文化にめぐまれた土地なので、350gの地元野菜を食べると+になるキャンペーンをしたらたのしそう
肉のように、市民に広く購入していただくイベント等行ってほしい。
農林水産物(宮崎産)を知ってもらうように広告する
地産地消を活用したおいしい料理等の積極的なPR
MVP350の推進活動は全く知りません。私が知らないだけかもしれませんが、広報活動は大いにやって欲しいと思います。
イベント(宮崎産アピール、どこで買えるか、料理教室)などあるといいな…飲食店で宮崎産の食材の料理が食べられるお店の案内、紹介、広報誌やタンミヤなど発信が欲しいです
SNS等スマホを活用して、より多くの世代に食や食育・地産地消を拡大して欲しい
宮崎と言えば、チキン南蛮、地鶏、宮崎牛等、畜産物に目が行くが、宮崎の野菜は最高においしい。みんな野菜の料理を知らないのではと思う。生の野菜を購入し、料理したくなるような意識づくりが大切だと思う。レシピの公開とか、宮崎野菜購入キャンペーンとかしたらどうか。(若い人は、電子レンジ料理やお弁当を買っている人が多いと思う。)
もう少しPRや県内でのイベントをたくさんして知ってもらうことも必要かと思う。ギョーザみたいなイベントのように豚肉や野菜、魚料理など
コロナが終息したら、イベントをたくさんして販売してほしい
コロナが収束した後での考え方です。地産地消の農産品がたくさんあります。現地(畑・田んぼ)で有料のイベント(消費販売目的)を実施してみたらどうでしょう。現地で作って見せ食べさせればもっと消費が拡大するようになると思います。
行政に期待することはPRがメインではないかと思っています。
自分一人だけで解決できない。家族皆で考えないといけない。市で時々講演、講話や市の広報などで周知徹底してほしい。
若者にアピールするためにはTVだけでなくユーチューブなどのSNSをもっと活用して知るきっかけを作ってほしい。

うちはどっちかというと、手作り料理をほとんど食べるが、コンビニ等々のCMで便利な食べ物が多いし、インパクトがあるのでそちらに行きがちと思う。負けないためには民間を使って(お金も使って)宮崎の食や食育をPRしていくべきだと思う。

宮崎には自然豊かな、そして安心、安全な食べ物がたくさん有る。これを大々的にPRできないでしょうか？

グルメイベントを開催したり地産地消の食べ物をインターネットで紹介したりする

行政からの、頻度の高い情報提供が必要。

宮崎の食材が大好きです!!おいしいです!!もっともっと県外にこの豊富な食材を知ってほしいです(PRIに力を入れて欲しい!)

日本農業遺産に認定された、田野、清武地域の農家の皆様がますますやりがいを感じられるような農産物のアピール

【安心・安全】

宮崎の食べ物は安心です。トマトが大好きで地産のものをよく買います。孫もいるので安全な野菜や果物・肉・魚の購入にはいつも気をつけています。広報誌などで、宮崎野菜を使った料理レシピをとりあげるなどは、とてもよとりくみだと思えます。値段は少々高くても、安心・安全・新鮮な宮崎の食材を選びたいと思うので、農林水産業に携わる方のバックアップ(支援)を行政には期待します。私たち消費者は、地元のものを食べることで応援しています。

【ブランド化】

青島にガーリックシュリンプでまちおこしをする活動があります。郷土料理、B級グルメなど名物をつくっていく必要は感じます。但し、それらは市民の為ではなく観光需要の拡大の為に必要だと思います。市民の中に食べたこともない郷土料理が根付くことはありません。外食を通じてその料理を知り、県外からの認知を得てようやくそれは郷土料理として地位を得ます。よって、目的は郷土料理を拡大ではなく、観光客の増加を目的とし、手段が郷土料理やB級グルメであれば、せつかくなら宮崎という地のモノを食べたいという需要は拡大するはずで。

宮崎の野菜は自分で作っているものもあるが、長年住んでいた奈良や京都のものより色彩がよく味も濃いと思います。それは日照時間にも関係しているのではないのでしょうか。見た目と内容(味)を前面に出してすべての野菜のブランド化を図って欲しいです。

宮崎市の農産物や漁業物は、ブランド化が進みすぎ、地域にとって高価であるという印象が強い。勿論、技術的レベルが上がるのは結構だが、やれ太陽の・・・、やれ〇〇と、高級化が進む。安く、食べやすい、新鮮なものを地元へ還元する指導が有ってもいいのでは。地元生産品を県民に食べてもらう、この意識改革から始めよう。

何といってもブランド名が低く、全国メジャーではないので大変です。行政に期待しても無理だと思います。

【価格】

通常、農産物は野菜単価は安価なはずだが、宮崎市は他県と比較すると高いと思われる。これを解消するようにしてもらいたい。

コロナの関係もあると思いますが、宮崎の野菜や肉・魚など安心して買います。高くても(輸入や他県は、選ばなくなりました。)宮崎産を手にとっています。東京のスーパーで肉、野菜は、宮崎産が安心でおいしいと会話をされていました。宮崎は、絶対都会になれないのだから、安心な九州の田舎で良いと思います。

宮崎市で生産されている物の紹介を増やすとともに、なるべく低価格を実現する。

川南町で実施している軽トラ市に準じて、宮崎市においても生目の杜などで月に一度ほど、実施してほしい。曲がったキュウリなど県外に出せない野菜等を安価で提供できる仕組みを構築してほしい

宮崎牛やマンゴーは値段が高いので、贈答用として利用はしていますが、自分たちの口には入りません。「特売日」を設けてほしいです。

宮崎にはいろんな食材に恵まれているので、地元で食べる習慣を作るといいと思います。そのためには、買いやすくなるように価格など手取りやすい取り組みに期待したいです。

地産地消は推進すべきだが、購入しやすい価格であることが前提。宮崎市以外の県内市町村の産物とも連携して、県として一体的に取り組みが必要だと思います。市役所に地産地消のレストランを設けてはどうか。

宮崎は、農林水産物が豊富で、新鮮な食品が多いので、市民に多くの物産が低価格で手に入るような、産地直送品のお店を増やしていただけると、ありがたいと思います。

宮崎県内の地産地消ネット通販の送料の半減、自宅配送になると送料が高くなるので受け取り場所を近くのコンビニ等に自分で指定して自分で取りに行く。

野菜など、規格外で県外に出せないものは、市民により安く販売できれば野菜摂取量も増えてWin-Winになるのではないのでしょうか。

マンゴーなど県外の方からするとなかなか食べられない物が産地だからこそ規格外の商品などが手頃な価格で手に入り食べることができるのがとてもいいと思っています。ただ市場を通してない分、残留農薬が心配な所もあります。産直市場などの商品も残留農薬の検査をして頂けるとより安心して購入できます。

地産地消を推進するのなら、価格を安くしてください。

品質が良く美味しいものは県外に行っているイメージがある。もう少し安価で購入できると良いと思う。

【その他】

気にはしているけれど、実践できないのが実情です

MVP350ポスター呼びかけとしては結構だが、一般の主婦には理想としてはわかっても実行はムリなように思う。少し表現を工夫してみたらと思います。

安価で安全な食を維持できるよう農業が充実するよう行政を期待したい

今後積極的に参加しようと思う

仕事の終わりを16時に(夕食の時間がとりやすい)。地場産品の配付(子どもや高齢者など必要性の高い人へ配付する)。

特記事項はありません

生活習慣病を気にして、食事の量を減らしているが、野菜を350g食べると他のおかずが食べられなくなる。このあたりの指導をしてほしい。

一日の食塩摂取量が健康寿命に大きく影響することをあらゆる場面を通じて市民にPRし、「食塩摂取量の減減」こそを宮崎市の保健行政の最重要課題の一つとして取り上げて欲しいと思います。参考: → <https://www.tyojiyu.or.jp/net/topics/taidan/post.html>

子育て、孫育てが一段落した今、若い者は、昔の料理をなんでも喜んで食べている。サツと仕上げた野菜のためでも。我々が若い時代は、一年に何度か煮る山菜と芋の煮染めを煮て先輩の方に食べていただくのが一人前(母として、嫁として)として認めてもらったものだ。今はカット野菜を日常、つかっているとか、これをはじめ見たとき、本当に吃驚もした。時代が変化しているのは、承知のこと。だが、それを料理につかうのは、味気なくなってくる。

とくにはありませんが、食育基本法を見ました。なんでも書いてあるという印象です。多目的は無目的だと思います。成人への食育について啓蒙活動を期待します。「食べ放題飲み放題いくら」とかチラシを見かけます。毎日大量の食べ物が廃棄されます。食べ物に対しての扱いが粗末です。その結果、糖尿病や高血圧等々の病気になってしまっているようです。食事と健康は表と裏みたいな関係であると思えます。人類の歴史は飢餓の歴史といわれています。我々の体にはその飢餓に対応するシステムがDNAに記録されている。その体で必要以上の食事をとることが病気になる原因ではないでしょうか? 飢餓なんてありえない現代において空腹をみするための食事は、食事術という技術的傾向を持つようです。そのため「〇〇〇の食事術」などと言う本が80万部も売れる時代なのだと思います。やがてはAIが個人の食事を管理するかもです。

標語を掲げているだけで、成果が下がっています。なぜなら、我国の食料自給率は毎年下がっています。最新の記録、私の記憶違いがあるかもしれませんが、36%位だったと思う。これでは宮崎市市役所職員は何をして、勤務しているのか。宮崎市市役所職員は、本気度が足りないのでは。第一段階目標は、食料自給率50%、第二段階は、欧米型の我国の食料自給率80%以上が達成されたとき、食育、地産地消が実績として、成果が認められる。宮崎市の食、農地に関しては、りっぱな標語は掲げるが、実情は、逆行を市政は進めることがいくつも見られ、行政不信を感じる。例えば、40年から50年前だろうか。宮崎市では広くまとまった農地は生目と住吉しかない。優良農地でもあり、大事に農地として保存した。農業振興も図りたい。と、宮崎市関係者から、幾度も説明を受けていた。かなり昔のこと、時効か。首長が変わり、時の首長の方針転換があるのか。ところが、今はどうだろう。生目の農地は、長い環状線が通り、農地の市街化が進んでいる。住吉は、国道10号線バイパスが計画されている。基盤の目に整備された水田に、無情に、蛇行した道路、立体交差も三か所あるようだ。農地が減り、農振地域とは思えない。住吉も市街化が進むのか。行政の在り方に疑問あり。農地、農民が減っているのに、食育、地産地消を進め、食料自給率向上を達せる妙案はどんなものか。農地が減っているのに、担い手増加の秘策はどんなものか。スマホでしらべたところ、日本の農業人口は、過去10年間では、1年に10万人から20万人の農業人口が減少している。最近の日本の総農業人口は、150万人余りとか。農地の基盤整備を進める、と言いながら、基盤の目の水田に、蛇行、円形の道路との、共同作業。違和感あり。農民、農業、環境を大事にした行政を望む。

「再犯防止の推進」に関するアンケート調査 集計結果

◆ 調査の目的

「再犯の防止等の推進に係る法律」により、地方再犯防止推進計画を策定することが、市町村に努力義務化された。それに伴い、本市においても「宮崎市再犯防止推進計画」を策定することし、アンケート結果を計画に反映させる。

◆ 調査の概要

- (1) モニター数 184人
- (2) 回答者数 153人 (回答率 83.2%)
- (3) 担当課 福祉部 福祉総務課

◎ 調査結果

集計結果の数値(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の比率の合計が100%にならない場合がある。また、複数回答の設問は、比率の合計が100%を超える。

問1 再犯防止に協力する民間協力者として、次の方々がいることを知っていますか。知っているものをすべて選んでください。

選択肢	回答数	構成比
1 保護司	107	69.9%
2 更生保護女性会	15	9.8%
3 協力雇用主	36	23.5%
4 BBS会	6	3.9%
5 更生保護施設	72	47.1%
6 教諭師	26	17.0%
7 篤志面接委員	8	5.2%
8 少年補導委員	70	45.8%
9 少年指導委員	51	33.3%
10 少年警察補助員	16	10.5%
11 いずれも知らない	30	19.6%

問2 前問でご覧いただいたような民間協力者を増やすためには、何をすべきだと思いますか。あてはまると考えられるもののうち、御自身の考えに最も近いものを最大二つまで選んでください。

選択肢	回答数	構成比(%)
1 民間協力者の活動を紹介する広報を充実する	88	58%
2 民間協力者に対する表彰の機会を増やす	20	13%
3 民間協力者に対する研修を充実する	53	35%
4 民間協力者に対して、活動する場所の提供や財政的な支援を充実する	71	46%
5 分からない	16	10%
6 その他	7	5%

問3 あなたは、犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いますか。あてはまるものを一つだけ選んでください。

選択肢	回答数	構成比(%)
1 思う	21	13.7%
2 どちらかといえば思う	47	30.7%
3 どちらかといえば思わない	26	17.0%
4 思わない	30	19.6%
5 分からない	21	13.7%
6 その他	8	5.2%

問4 問3で「思う」、「どちらかといえば思う」を選択した方にお聞きします。どのような協力をしたいと思いますか。あてはまると考えられるもののうち、ご自身の考えに最も近いものを最大二つまで選んでください。

選択肢	回答数	構成比(%)
1 犯罪をした人に直接会って継続的に助言や援助をする	13	19%
2 協力雇用主として、犯罪をした人を雇用する	5	7%
3 更生保護施設にお金や品物を寄付する	10	15%
4 再犯防止に関するボランティア活動に参加する	36	53%
5 広報・啓発活動に参加する	21	31%
6 その他	2	3%
7 分からない	12	18%

問5 問3で「思わない」、「どちらかといえば思わない」を選択した方にお聞きします。協力をしたいと思わない理由を教えてください。あてはまると考えられるもののうち、ご自身の考えに最も近いものを最大三つまで選んでください。

選択肢	回答数	構成比(%)
1 自分の家族の身に何か起きないか不安だから	30	53.6%
2 犯罪をした人と、かかわりを持ちたくないから	28	50.0%
3 犯罪をした人と、どのように接すればいいかわからないから	27	48.2%
4 自分自身にメリットがないから	7	12.5%
5 具体的なイメージがわからないから	17	30.4%
6 時間的余裕がないから	15	26.8%
7 興味がないから	5	8.9%
8 犯罪をした人への支援などは国や地方公共団体が行うべきだから	10	17.9%
9 犯罪をした人に支援などするべきではないから	11	19.6%
10 その他	3	5.4%
11 分からない	2	3.6%

問6 あなたは、再犯防止に関する広報・啓発活動の取組である「社会を明るくする運動」又は「再犯防止啓発月間」を聞いたことがありますか。あてはまるものを一つだけ選んでください。

選択肢	回答数	構成比(%)
1 両方とも聞いたことがある	27	17.6%
2 「社会を明るくする運動」のみ聞いたことがある	17	11.1%
3 「再犯防止啓発月間」のみ聞いたことがある	19	12.4%
4 どちらも聞いたことがない	90	58.8%

問7 あなたは、再犯防止に関して、広く市民の理解や関心を深めるため、何をすべきだと思いますか。当てはまると考えられるもののうち、ご自身の考えに最も近いものを最大三つまで選んでください。

選択肢	回答数	構成比(%)
1 芸能人やキャラクターが出演するイベントを充実する	21	13.7%
2 誰もが参加できる講習会などのシンポジウムを充実する	48	31.4%
3 テレビや新聞などでの広報を充実する	76	49.7%
4 ホームページやSNS等のインターネットでの情報発信を充実する	34	22.2%
5 パンフレットやポスターを増やす	23	15.0%
6 再犯防止に協力する民間協力者に対する表彰の機会を増やす	16	10.5%
7 学校の授業で取り上げるよう働きかける	68	44.4%
8 地域や社会教育の場で話し合う機会をもつよう働きかける	47	30.7%
9 職場の研修などで取り上げるよう働きかける	27	17.6%
10 その他	6	3.9%
11 分からない	10	6.5%

問8 あなたは、再犯防止のためには、具体的にどのようなことが必要だと思いますか。あてはまると考えられるもののうち、ご自身の考えに最も近いものを最大二つまで選んでください。

選択肢	回答数	構成比(%)
1 刑事司法関係機関(刑務所、少年院、保護観察所等)による一人ひとりの問題性に 応じた、きめ細かな指導や支援を充実させる。	59	38.6%
2 仕事と住居を確保して安定した生活基盤を築かせる	76	49.7%
3 犯罪をした高齢者などに対して、福祉の制度の利用を促進する	28	18.3%
4 被害者の置かれた状況や心情を理解させる	55	35.9%
5 犯罪を地域の問題として捉え地域ぐるみで再犯防止に向けた支援をする	32	20.9%
6 その他	5	3.3%
7 分からない	14	9.2%

問9 仕事に就いていない人の再犯率は、仕事に就いている人の再犯率と比べて約3倍となっています。そこで、犯罪をした人が仕事に就くために、何をすべきだと思いますか。あてはまると考えられるものうち、ご自身の考えに最も近いものを最大三つまで選んでください。

選択肢	回答数	構成比(%)
1 犯罪をした人に対して、仕事に就く意欲を向上させるための働きかけを強化する	34	22.2%
2 刑務所や少年院の中で、施設から出た後に役立つ技能や資格を取得させるための教育を充実する	92	60.1%
3 広く国民に周知するなどして、協力雇用主を増やす	34	22.2%
4 協力雇用主の活動を支援する	70	45.8%
5 人手不足の産業分野の関連団体に対して、犯罪をした人の雇用を推進するよう働きかける	43	28.1%
6 犯罪をした人を国または地方公共団体の機関で雇用する	27	17.6%
7 犯罪をすると、一定の期間経過するまで、就くこのとできない仕事や取得に制限がある資格(例えば、警備員や介護福祉士等)の要件を緩和する	9	5.9%
8 刑事司法関係機関とハローワークなどの職業紹介事業者が連携した支援を強化する	39	25.5%
9 その他	8	5.2%
10 分からない	13	8.5%

問10 刑務所を出ても住む場所がない人は、住む場所がある人に比べて、再犯に至るまでの期間が短くなっています。そこで、犯罪をした人が住む場所を見つけるために、何をすべきだと思いますか。当てはまると考えられるものうち、ご自身の考えに最も近いものを最大二つまで選んでください。

選択肢	回答数	構成比(%)
1 家族や親族が受け入れるよう、働きかけを強化する	38	24.8%
2 更生保護施設などの一時的に宿泊できる施設を増やす	75	49.0%
3 公営住宅に入りやすくなるよう、要件緩和などを行う	35	22.9%
4 保証人がおらず、賃貸住宅を借りることが難しい人に対する身元保証の仕組みを充実させる	47	30.7%
5 住み込みで仕事ができる協力雇用主を増やす	47	30.7%
6 その他	3	2.0%
7 分からない	14	9.2%

問11 65歳以上の高齢者が刑務所出所後2年以内に再び刑務所に入所する割合は、全世代の中で最も高くなっています。そこで、高齢者の再犯を防ぐために、何をすべきだと思いますか。当てはまると考えられるものうち、ご自身の考えに最も近いものを最大二つまで選んでください。

選択肢	回答数	構成比(%)
1 家族や親族が受け入れるよう、働きかけを強化する	46	30.1%
2 刑務所で認知症予防や運動機能向上に取り組ませる	52	34.0%
3 刑事司法関係機関に配置する福祉の専門家を増やす	36	23.5%
4 刑事司法関係機関の職員に対して、福祉分野などの研修を充実する	26	17.0%
5 刑事司法関係機関で、保健医療・福祉サービスやその手続きについて、積極的に情報提供を行う	55	35.9%
6 その他	12	7.8%
7 分からない	21	13.7%

問12 覚せい剤取締法違反により受刑した人が刑務所出所後2年以内に再び刑務所に入所する割合は、ほかの犯罪と比べて高くなっています。そこで、薬物依存者の再犯を防ぐために、何をすべきだと思いますか。あてはまると考えるもののうち、ご自身の考えに最も近いものを最大二つまで選んでください。

選択肢	回答数	構成比(%)
1 刑事司法関係機関で薬物依存症からの回復のための専門的なプログラムを実施する	65	42.5%
2 地元の薬物仲間などとの関係を切るため、別の地域で生活できるよう支援する	42	27.5%
3 薬物依存症からの回復を支援する民間団体の活動を支援する	44	28.8%
4 薬物依存症の治療を専門とする医療機関を増やす	55	35.9%
5 刑務所に収容する代わりに、薬物依存症の治療を優先した仕組みを整備する	49	32.0%
6 その他	4	2.6%
7 分からない	12	7.8%

問13 犯罪をした少年少女の再犯防止のために、何をすべきだと思いますか、あてはまると考えられるもののうち、ご自身の考えに最も近いものを最大二つまで選んでください。

選択肢	回答数	構成比(%)
1 社会の一員としての意識や規範意識を高めるため、ボランティア活動に参加させる	45	29.4%
2 少年院や保護観察所で被害者の置かれた状況や心情が近いできるよう教育を充実させる	50	32.7%
3 少年院などで高等学校卒業程度認定試験や進学のための教育を充実する	40	26.1%
4 犯罪をした少年少女の保護者に対して、育て方や親子関係に関する相談・助言を強化する	28	18.3%
5 学校における非行防止や薬物乱用防止に関する教育を充実する	51	33.3%
6 障がいを持っている、犯罪をした少年少女に対して、育て方や親子関係に関する相談・助言を強化する	15	9.8%
7 刑事司法関係機関による指導監査の期間を長くする	20	13.1%
8 その他	12	7.8%
9 分からない	10	6.5%

問14 「再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる『誰一人取り残さない』社会の実現が大切である」という意見について、どう思いますか。

選択肢	回答数	構成比(%)
1 そう思う	54	35.3%
2 どちらかといえばそう思う	59	38.6%
3 どちらかといえばそう思わない	9	5.9%
4 そうは思わない	10	6.5%
5 分からない	21	13.7%